

たずして、生産者の立場をも斟酌して、之れが施設をなさんとするものである、其の考慮や社會主義的組合よりも穩當なりとの賞讃を博する所以である、凡そ如何なる人にも單に消費者たるものにあらず、多少は生産者である、此の生産者たり又消費者たる資格の、大小程度は固より人によりて異なるが、誰れか生産者たらず消費者たるのみのもあらんやである、此の意義に於て協同主義的組合の社會改造の根本義として恰當するを知るのである。

我邦の産業組合は今や其の總數一萬三千百六、聯合會數百二十三、組合員數百九十五萬九千餘名、各種資金總額貳億貳千四百參拾餘萬圓に及んでる。(大正八年十二月末産業組合第一七四號所載) 其中購買組合數八千餘に上る、我が産業組合は斯く多數に設立運用せられつゝあるも、組合と組合員との關係も亦よく圓滿に保たれ、其の効果も亦組合員の満足する所迄に至りたるや否、疑を挿むべき餘地あるが、然し乍ら現に同じ産業組合中央會提出に係る協議問題に「今後の時勢に順應す

る爲め産業組合の經營上執るべき要項として、組合員を指導して協同調和の要諦を理解せしめ勤儉力行の精神を發揮すること、資力を充實し組合事業の擴張を圖り事業組合の發達を圖ること」等あるを見ると、産業組合の性質上又其の或る發展の道程上極めて重要な施設たるべき此等の事項が、未だ充分なる効果を顯はすに至らず、他面に於ては産業組合の事業の發展上未だ爲すべき事項甚だ多きを證明するものと云ふべきである。

二

我が産業組合數一萬三千餘中購買事業を營む數八千に上ることは既に述べたが、事業組合としては購買組合のみを含むべきではない、販賣組合生産組合も其の重要な度に於て購買組合に劣らない、けれども今暫く購買組合が農業生産の原資たる肥料供給に就て如何に施設する所あるかを見て、我が産業組合中購買組合の效程に就て論ずる、八千の購買組合中産業原料品を取扱ふ目的で設立せられたる農村購買組

合が殆んど其の全部を占むるものであつて、而して其目的品を取扱ひたる組合約五千に過ぎず、其の量も組合員の一部の需用を充すのみであるは、統計の示す所である、農家に最も主要視せらるゝ肥料中過半數の金額を占むる豆粕取扱を爲すもの、亦三千に充たざるものゝやうである、豆粕は云ふを俟たず我が肥料中取扱容易で最も農家に親しみ深く、且つ普通に施用して他の人造肥料よりも優れるものである、人造肥料中或る種の肥料の如きものは之を一般に用ひて効果の如何を疑はるものあれども、豆粕は之れを田畑に用ひ如何なる土質に施すも效用疑はるべきでない、或種人造肥料の如きは土壤の理學的性質を悪化するを免れざるも、豆粕は肥料成分を充分具ふる外土壤を改良する特性がある、斯くの如く豆粕は我邦農家一般に普ねく之れを施用せしめて効果多く而も害なき肥料である、然るに我が八千の購買組合中豆粕肥料を取扱ふもの僅かに三千、其の全數の半に足らずといふは事業組合たる購買組合が未だ組合員たる農家に満足を與へたものとは云ひ得ない、或は豆粕

が、其の價格の變動甚だしく苟も堅實を尊ぶ購買組合の取扱ふべき品物にあらずと謂はんか、一應道理あるが豆粕は組合員の産業に必要な原料品であつて固より缺く可からざる買入品である、然るに組合が此品の取扱をなさずして農家をして自ら區々に之れが買入に奔走せしむるは、組合の自ら顧みて忸怩する所であらう、抑も斯くして、尙事業組合の發達を望み得べきか、最も使ひ慣れ他の肥料に比して肥效多く而かも土壤改良上優良な豆粕を農家の之れを必需するにも拘らず、組合が取扱を爲すこと少きは、其の職責を盡すものと云ふことは出來ない、商品として豆粕の價格は變動多きもの故、商品其のもの取引關係に於て、原産地たる滿洲の取引状態を深く研究する餘地がある、然るに事茲に出ずして其の儘止むは不親切の甚しきものと謂はなくてはならぬ、組合としては苟くも斯かる危険より之を脱する處置に出で、以て組合員たる農家の求めに應ずるが組合理事者たるもの、職責である、而して此事たる、實現し得べきものとすれば、産業組合理事者たるもの此れが

計劃を研究し以て空しく終らしむべきである。

三

現今組合が農家の需用に應ずべく大豆粕を買入るゝ方法如何と見るに、肥料商に注文して時の相場にて黙々として引取るか、或は注文當時價格を協約し取引する場の二つである、然るに現品引渡時に於て相場の變動は相互間に紛擾を生じ、不取引に終ることの多きは、吾人の耳にする所である、斯の如きは中世に於ける商業組合の爲す所と毫も擇ぶ所なしと謂ふべく、購買組合は農家の需用に應ずべく引受けたる責任を果す能はずして、其の權威を傷けられ、組合も亦引取不履行により、商人に信用如何を疑はるゝことが多い、何が故に斯く大豆粕は取引上需用供給の均衡を得ざるか、其の均衡を得ざるは、果して取引上當然に出るか、否か、此の點余輩の組合及び農家と共に考究し、若し斯かる取引にして正當でないとするれば、進んで組合及農家の爲めに大豆粕取引上當然なる處置を採らんことを勧告するものである。

四

聞く所に依ると、某商事株式會社は大豆粕供給の依頼に應ずる旨の廣告を漫りに地方に發した、すると各地組合からの依頼注文頻到したところが、元來同會社は大豆粕を供給する深き意思は無かたのであつたから、その需用に應じてさすつたといふ、是れ固より某商事會社に誠意なく單に自己の都合上に出て徒に農家を翻弄せるものであるが、さりとは、地方農家及び其の利益代表者(農會組合)等が大豆粕の商取引を知らず、徒に彼等の名前を過信するに由つたのである、然らば如何にせば組合は組合員たる農家に其の必需品たる大豆粕を満足に供給し得るか、要するに、我が購買組合及び購買組合聯合會は英國の消費組合が有する如きCWS (産業組合卸賣會社)を有し、而して一方に於ては獨逸の有するが如き中央組合ドイツエチエントラルカンゼ金庫バンクがなくてはならぬ、思ふに此れ等の必要事たる、我が組合當事者にして苟くも具眼の士は既

に其の要を認めたるものとみへ、産業組合大會には既に各方面から當該問題の提出があり、決議もありと聞く、而も決議は決議のみで終り毫も研究し且つ實現せらるゝ事無く、荏苒歲月を経過した、此の弊は我が國に於て獨り産業組合のみではない、他の農事代表團體が皆一樣に陥る所のものであつて、吾人の常に苦々しく感ずる所である、其の由つて來る所は遠く徳川時代のハイヤルキー及び近くは明治官僚制度の弊害に外ならないが、要するに、實に思想と實生活の一致せぬことを示す適切な例證だといふてよい、然れども思想は實生活から生るゝものである、既に産業組合大會に於て産業組合の金融機關なかるべからざる所以を決議し、又進みて産業組合にて肥料製造機關をも設立せんことを決議せるは則ち、産業組合の實生活より其の到着すべき思想の生れたるものに外ならない、果して然らば購買組合が大豆粕を供給する責任を斯業者の爲めに蹂躪せられて、毫も進んで之れを供給する策を廻らさずと云ふは、自家撞着の甚しきものであつて、曩時の決議の手前にも恥ぢ入る次第

である、是れ産業組合當局者の爲めに深く遺憾とする所である、産業組合當局者の爲めの遺憾は遺憾として之を措きて可とするも、獨り彼の農家の爲めを如何せん、食糧の獨立は何事を措きても邦家の最大要務である、此の最要務を確實に安全にしかも豊富に迅速に實現する可能は、其の生産の資源たる一般的肥料の供給確立に待つより外はない、然るにこの一般的肥料たる大豆粕の供給は既に述べたやうな不甲斐ない不確立の状態にある、農家は施肥の好季に之を手に入る能はず、而して産業組合も亦之れを如何ともする能はず、袖手傍觀只管斯業者の誠意(?)のみに依頼するは何事ぞ、(!!)此れを供給するの途なくば止む、苟くも有るあらば吾人焉んぞ奮然之れが衝に當らざるを得んやである。

五

抑も大豆粕は滿洲に於ける油房(製油所)の製造に係る製油の殘滓である、内地農家は此の殘滓を肥料として需用するのである、油房事業の副産物たる大豆粕は其の

冷却を持ちて満鐵埠頭倉庫に混合保管せられ、油房は全く之れを貯蔵することなきものである、故に大豆粕を買入れんとせば何人たるを問はず大連取引所に於て仲買人の手を経て買入れ得る、固より彼の輸入商の手を待たない、現に熊本縣有志は團體を作り大連に渡りて豆粕五萬枚を第一着として直接購入し、自ら之れを縣地に輸入して大に農家の感謝を買ひたる事實がある、蓋し農家の感謝したるは其の入用に間に合ひたるのみではない、而かも其の價格が低廉であつたからである、然れば産業組合當事者が大豆粕の買入を一に肥料商にのみ委任して、自ら之れを供給するの策を廻らさざるは、農家に忠なりと云ふべからず、將た其の任務を怠るものと云ふべきである、然れども熊本縣有志が爲した直接輸入の成功は、大連取引所休止中、當年の大豆粕需給の亂調なる状態の然らしめたる所であつて、常に斯る奇功を期し得べしとするは誤まる、即ち豆粕の買入は必ず大連取引所仲買人の手を経るは固よりであるが、大連に於ける取引額は一箇年數億圓の多きに上るを以て、僅々たる數萬の

小資金のよく之に處し得べしと期するは、蓋し常識の許さざる所なのである、必ずや豊富なる資金を擁し買入、運送等自ら之を行ふにあらざれば廉價を以て農家に供給することはできぬ、大連取引所は保證金の制度無く銀貳拾五錢の手數料を納入せば、一玉即ち壹千枚の大豆粕の賣買は自由である、之れを以て動もすれば大豆粕の空相場を試ましめ、從て斯業者間に大口の買占的商行爲屢々行はれ、爲めに大豆粕相場の變動甚しきを致すことある所以である、例へば或は特に二三豪商連の思惑買者が内地農家の購買力大なるを豫想し、春物に向つて空然なる買占をなし暴騰を來せしも、金融梗塞其の他の事情よりして彼等の失脚となり、暴落を來せし如き好個の一例である、然れども其の價格の變動の激しきは常に之れあるにあらず、思ふに取引制度の不備もあるものゝやうである、早晩是等は改善せらるゝであらう、然るに價格の變動甚しき所以を以て、農家に之れが共同購入の危険を警告するもの往々指導者の地位にあるものにありと聞く、從つて農家を投機業者の爲めに其の蹂

欄に委し、或は多數中間商人の爲めに價格の不廉を來さしめ、我關せず焉たるものあるは當事者たるもの、職責を盡すものと云ふべきか、宜しく豆粕取引上最善の方法を講ぜざるべからず、其の需要期に間に合ふべく適宜に而かも安値に之れを産業組合又は農會等の手を経て農家に供給する公益的機關を大連に置く必要がある所以である、而して支社出張所は之を内地重要なる各地に置き、各關聯して其の任務に就かしめ、又組合の必要とする場合には、延賣する組織をとらしめ、金融に就ては、此種機關は産業組合を通じて勸業銀行農工銀行を最も多く利用するは明に兩銀行法の許す處であつて、双方相待つて利便を得るは勿論である、從來の取扱方法の如きは多くは變則的取扱に屬する嫌がある、假に商業手形割引行使に付ても融通の手形の形式に流れ易く、動もすれば其金員の使途監督を爲すも頗る至難なるやうである、此の點當事者に於て特に注意を拂はざるべからず、斯くすれば産業組合當事者が組合自己の金融機關なかるべからずとする、將又自己の卸賣會社なかるべからず

るとする、思想に共鳴するに止まらず、實に之を實現せんとするものである、決議が單に決議として中央會の議事録に止まらずして、世に生れ出で其の効果を顯はすものと云ふべきである。

吾人が特に豆粕に就て之を主張する所以のものは、豆粕は農家の購入品として主位を占め、而も其の取引に就て從來大缺陷を有するからである、産業組合等の希望を満足せしめんとせば、勢ひ買繼所とも稱すべき資本の豊富なる一大機關を、豆粕の買入地に設置するは、最も機宜に適する建策なることは既に述べた、而して特に本社を大連に置く必要のものは、大連は買入地なると共に荷物發送に伴ふ爲替の振出地であるからである、豆粕の購入は取引所に依れば仲買人を経て何人も爲し得べきは既に述べた所なるも、凡そ豆粕の賣買は其取引が銀建なるを以て、先づ豆粕を買はんと欲せば銀の安値を窺ひ、安價に銀の買付けをすれば、随つて豆粕を安價に買入るゝの理なることをよく銘ぜざるべからず、而して更に購入者は第一購入時

期の適否を考へ、之れが内地輸入に伴ふ運賃、金利等を綜合したる計算に基き、買入をしなければ、只大連に於ける價格のみ安價なりと稱するも、其一を知りて未だ二を知らざる結果に陥るの理である、故に以上の商機を見計ひ取引を迅速ならしめん爲にも本社を大連に置く必要がある、而して此種機關を措いて、從來の如く一般商人の手を経て其供給方に努力せんとしても、其の取引は常に商家の戦ふ取引所相場の波上の動搖に左右せられ、遂には現物受渡の困難に遭遇し、需要者たり一面供給者たる任務にある産業組合は之れが爲、他動的に破壊せらるゝ虞なしとしない、府縣聯合農會又は中央産業組合等の購買品斡旋事業の權威なき點茲に存する、而して此豆粕供給の一大機關に於ては、内地支社又は出張所に於て産業組合より注文あらんか、大連本社に直電し、之れが買入をなし之れを直輸入し、豫定の日時に注文當時に於ける大連市場の價格を以て、之を注文者の手に渡す方法を採らざるべからず、而して大連市場に於ける狀況は平時絶えず購入者に知らしめ、購入時期に就て一面亦相

談所たらざるべからず、縦令注文後相場變動するも、此機關は一定の手數料を收得するの外、注文者に之を轉嫁せしめざる、要するに商法に規定せる純然たる問屋業者たらざるべからず、現今大連斯業者に大豆粕問屋商と號する者數多存在するも、純然たる大豆粕の問屋業者は一も存在せず、何んなれば凡て輸出入商は大連取引所相場の鞘より生ずる利益を目的とする者であつて、受托者たる手數料を得るを目的としないからである。

豆粕輸入商は主なる輸入港に於て相寄り申合せの内地大豆粕の相場を呼唱し、需用者に其價格を以て取引するを常とする、而して地方の商人も産業組合も農家も之を眞の大豆粕の相場としたるものである、而して相場上れば之れを需用者に轉嫁し、下れば之れを自家囊中に取り入るゝものである、吾人は内地に於ける大豆粕の相場を稱して商人の申合相場なりと謂ふ、何となれば内地には大豆粕の取引所の設け無く、取引所以外に於て當業者の協定せる相場は單なる申合せに過ぎぬからである、

而して商人中時には在庫品無くも需用者より注文を引受くる場合が多い、需用者は肥料商が現品を所持するものと信ずるが、何んぞ知らん、可憐なる大豆粕は尙滿鐵倉庫にストックせられ、内地輸入の日を待ちつゝあらんとは、故に肥料商にありては需用者より注文あるも、確實に着荷の時を明示する能はず、需用季に入りて切迫せる注文は、施肥の間に合はざることが多い、然るに今、大連市場に於ける眞の相場を注文者に公示し、一旦注文あれば直ちに其の着荷豫定日時を注文者に提出し、引渡地は固より其の貨車番號着時刻を明示せんか、需用者の受くる利益は大なるものがある、而して余輩の主張する機關は以て彼の輸入肥料商の如く需用季に當り際どく之れが輸入することをなさず、須らく運賃等の低廉なる時期を見て、農家に購入の必要を勧め、内地に輸送し置かんとするものである、汽船運賃の如きは甚しく昂低があり、一例を示せば、低きは最高時に比し大連より横濱港迄豆粕壹枚に付四拾錢の差違あるに見ても、運送關係の重要なるを知るべきである、尙ほ時によりて

は補助機關附帆船等を利用し需用者各地の港灣にこれを直輸送する等の運送業務をも兼營する必要がある、然らば輸送諸掛は著しく輕減せられ豆粕の代價低廉となり、需用者の受くる利益更に加はる筈である。

六

斯の如くすれば、當該機關は常に産業組合の卸賣會社たるのみならず、場合に依りては大豆粕の延賣によりて金融機關の用をもなす、而して産業組合をして組合員に對する大豆粕肥料供給の任務を、安全迅速に而も確實に豊富に、盡さしむることを得るのである、産業組合は法の監督保護の下に設立せるものなれば、此種機關の設立は産業組合をして本來の任務を盡さしむる重要なる道程に當るものである、既に述べたる如く、當該機關は別に大豆粕を自ら貯藏するの必要を多く認めない、何となれば注文主（組合農會其他）と此機關との間に於ける取引關係は頗る簡單であつて、例へば注文主は此機關より常に發送する商況通信により大連市場に於ける相

場の高低如何其他も、直接に知り得るの便宜があるから、注文主は豆粕の買入時機の適否を察知し、此機關に對し注文を電報すれば、豆粕の買入運送引渡の日時等は注文者の指圖に基き、直に豆粕の時價を確報すると同時に、物品引渡地の豫定日時運賃迄を通報し得るからである、當該機關は豆粕價格の變動を自己の損益に置かず純然たる問屋業者を以て自ら任じ、從來の取引方法に一新紀元を拓くを要するものなれば、従つて會社として享くる利益尠なかるべきも、之れに反して經營の基礎は頗る安全なる筈である、之れを要するに、吾人の唱道する機關は現時我國に行はるゝ而も形式のみありて運用の未だ普ねからず、又全からざる各種の農政經濟機關、則ち産業組合、農會、勸業銀行、農工銀行をして益々有益に其の特有の機能を發揮せしむる必要より生れたるものであつて、機關其物は營利の上に立つけれども、其半面に於ては公益を意味し嚴然として農政機關を補助するを以て任とするものである。

七

尙一言讀者の注意を喚起したきは、當該機關の如きは、財力的基礎を農村に置くこと、及び業務經營上主として産業組合農會等の手をからんとするものである、農村の小株主を多數集むるは甚だ煩雜面倒であるが、當該機關の利害は農村の利害と共通するが故に、其の主體たる株主を農村に求めざるべからず、又一面豆粕取引の唯一市場たる大連有志者の了解と援助に俟たざるべからず、産業組合農會の手に倚らんとするは、即ち産業組合農會は國家監督の下にある非營利的法人にして、基礎堅實なるを以て農村に對する事業は此等團體の手を経るを當然とするからである、此の二點は機關成立の二大方針として須臾も渝らしむべきでない。

本那農家の今日需用する大豆粕は凡そ四千萬枚に上り、其中購買組合農會等の手を経て供給せらるゝ數量は約九百萬枚餘に充たざるも、將來を察するに、農業の進歩よりして耕地一反歩に付豆粕五枚迄使用するに至るものと見做してよろし、

之れを他の語にて言へば、土地と集約の程度とによりて異なるが、一段歩に付き麥に二貫匁乃至二貫五百匁の窒素分を施すは、最も廣き範圍に於て行はるゝ量なるべきを以て、將來に於ける大豆粕の我が農業に於ける需用量は殆んど測るべからざるものあるべく、此公益的機關の完成は、益々産業組合の取扱數量を増加せしめ組合員の増加すると共に組合の發展を來すや信じて疑はざるところである、一種の經濟生活は一種の經濟組織を生む、而して經濟組織より社會組織生れ、社會組織より亦經濟組織生る、上述せる農民に直接する一種の經濟機關たる大豆粕取引機關も、亦此の理に生るものである、而して純營利的大資本は小得意を相手とするを好まず、又其の取引決濟の迅速なるを好む、是れ寧ろ大資本企業の性質上然かせざるを得ざる所なるも、余の唱道する機關は産業組合又は其聯合會、農會等を農民の代表として各自決濟媒介の單位となし、之れによりて何處迄も農村本位を失はず、權威と實力を以て之れに臨ましめんとする、若し産業組合乃至其の聯合會の小を以てして己れ自

ら之れを能くし得べしとなすものあらば、是れ産業組合の本質と商取引の極意を解せざるものである、其失敗に終らざるは莫けん、但し産業組合は斯かる農民本位の特種機關と相提携することに依りて、組合當然の任務を達するを得るのみならず、之によりて永續的に組合員を増加することができる、蓋し農民は始めて之れによりて經濟上深く組合の効用に直接すべく、而して農家の此の感念は最も深く經濟生活上より得るものであるからである、上來述ぶる所の豆粕輸入取引公益機關の設立に就ては、思ふに幾多の困難と戦はざるを得ざるが、幸に讀者諸士の誠意ある研究批判を乞ひ、敢て産業組合農會當事者に望む。

七、小作問題の解決方針

小作問題の解決方針

一

今や我邦の思想界は實に混沌たるものである、或者は封建時代の思想を懐き、他のものは社會主義乃至無政府主義、共產主義を夢み、之を兩極端とすれば、其中間に立つものは社會政策を主張するものである、而して社會主義者であつても其言ふ所、社會政策に近きものもあれば、共產主義に近きものもある、故に一々其人に就き其説を叩くにあらずれば到底其人の説の基く所の何たることを知ること出来ぬやうな次第である、自分では主張穩健なる所説と思ひ込んでゐるところのものが豈圖らんや、甚だしい極端なる共產主義であることもある、又別にそんな主義の問題を離れて農村に於ける實際生活及農業經濟の困難より割出して國家社會主義の如き政策の行はれんことを唱ふるものもある、然しながら其人は別に初めより主義とかい

ふ當世向きの新らしいがりをいふのではない、かゝる時代であるから、自己の所説によりて他人に其眞成の意味を會得されんことを望むは、望むものゝ心得違ひといはねばならぬやうな次第である、然れども既に操觚者を以て任ずるものは何處までも其信じるるところを説いて其を實際に行はしむるやうに努めざるを得ない、人の之を解するの點を心配するの餘り敢て遠慮會釋するの要はあるまい、但し成るべく解り易く説くべきに論はないが、此解り易くといふことは中々困難にして、如何なる人にも解り易くするには一書を成すより外はない、一書を成しても己れの期するが如く果して成るかどうかは亦計り難いのである。

二

農村問題は如何にして之を解決すべきかの問題に就て之を言へば、或者は親作小作の例を惹き封建時代乃至明治初年頃の實際の施設及其成績によりて、其實效ある方法を眞の解決法として自己の經驗乃至信念をのみ固執するものがある、然れど

も斯かる人はそは己れの資産及び其村に於ける位地、從來の慣習、小作人の態度等特殊的情態が斯かる解決法に附隨するものなるを忘れ、此條件を有せざる村落にても尙且これが有效なることを言ふものにして其心は諒とするも其實效は一般に覺束ないのである、温情主義は之を與へるものゝ自由に存して、若し之を與へらるゝ者之に對して一の苦情をも持出すことの出来ぬ次第では與へらるゝ者安んずることの出来ぬは當然ではあるまいが、茲に於て與へらるゝ者は其數の力によりても之を強制せんとする手段をとる、そうして一切の懸引を團體的行動に委することとなる、これ小作組合の各地に成立つ所以にして而して、組合の成立は又其效績をも伴ふのである、多數の力は大了たもので、着々地主を壓倒するの事例を見るのである、地主亦組合を以て之に對抗しつゝあるは各地に於ける地主並小作組合の爲す所である、固より地主組合は當局の勸誘によりて小作組合より以前に出来たのであるが、而かも當時の動機は今日の意義は少しもなく、眞に農業の發達農村の幸福のために設

立したのである、然るに今は直接に兩方とも兩方に對する團體的行動の本陳となつたのであつて、時勢の變測るべからざるものあるを知らしむるのである。

三

農村に於ける地主小作の斯かる對峙は畢竟どうなることだらうか、之を憂ふるものは遂に農村の荒廢を來すものとして之を見るやうである、然れども、樂觀者は之を以て當然のこととして毫も憂へない、それは、單に起るべきことが起つたものとして之を觀るからである、起るべきことが起らないときは、どうして起らないのか、其原因の探り當てられざる限り、それこそ本統の憂ふべきものである、然るに農村小作問題は起るべきものが當然に起つたのであるから、之を樂觀するのであらう、然らば此問題は仕舞にはどうなるのであらうか、其ど、い、の、つ、ま、り、ま、で、には幾多の難關もあつて幾多の波瀾もあるだらうが虐げられたるものとすれば、其虐げられたるものは遂に頭を擡げるであらう、「トレッツスバス」したものは其己れの境界

内に戻るまでである、その踏越されたるものは之を取戻すまでである、話しは茲に止まつて居る、己れの境界内まで戻るものは頭を搔く位が關の山である、或は頭を搔くまでではなく、別にきまりの悪い顔をせずとも濟むであらう、これ社會の出來ごとであつて、其もとは己れの仕出かしたのではないからである、又一方自分の奪はれたる部分を回復したのも、自己の力といへば言へぬこともないが、是亦實は社會のお影でそうなるので、別に威張るにも當らず、又威張るのは固より間違つてるのである、多數の力を恃むのはあり勝のことであつて、農村に於て、殊にそうであるが、是は尤も恥づべき次第であつて、今や各地に於て地主と小作の對抗上後者が其多勢をたのむて前者を威壓する事實あるはこれである、殊に之を當該問題以外にまで持廻して村々の安寧を害し幸福を破るが如きは沙汰の限りである、これはどこまでも慎重なる態度をとつて欲しいのである、然れどもその茲に至るのは亦それ／＼已むに止まれぬ事情があつて一方が之を激成せしむることもあらう、これは事

實問題であつて一概に之が曲直を論ずるわけにはゆかぬ、茲に於て即ち第三者たる而かも之が調停をなすべき地位にある官憲又は之と同等な立場にあるものの恒常注意すべきところのものは、問題の起るは起るときに之が對策を講ずるは既に遲きに失する、よろしく豫め之を處する方法を考ふべきで、然るときは早く之を解決し得るものである、眞に斯く早きに之れが對策を講ずれば紛糾することなきを以てこれだけれども大變農村經濟上幸福上其效績の大なるは言ふまでもない、その法は虐げられたるものは其壓力を取り除いて遣る外はない、但其法度を越ゆるべからずである。其法度を越ゆる「からり」とは「ナンナウ」あつた「ミヤマ」を使ふたう「これ」これ「肉」と「解決」を「たう」それ「ミヤマ」を越した「迷」解と「中」を「たう」(一五七)

八、地租委を讓斷行すべし

地租委譲を斷行すべし

一

今より二十餘年前地租全廢論を「實業の日本」に掲げたことがあつた、それが數年前になつて地租委譲論となつて其精神が顯はれて來たのは甚だ嬉しいことである、當時の議論は近著「農業政策」に収録してある、地租全廢論の主趣は地租は國税とすべきでなく地方税となすべし、それは地租は不公平なる租税にして之を全國畫一的に公正にすることは到底出來ない、之を地方税に移せば不公平はあつても、餘程其度を減ずるのであつて、よし減ぜぬにしても、一國乃至一縣内であるからがまんがでさる、それに地租には租税として先づ以て重要な弾力性がない、これも地方税に移すべき理由である、まして農民の負擔は之に依つて殺減することゝなるから、何より結構である、之が例は普國にあるとて普國の地租委譲を掲げたのである、此

頃或る貴族院議員は獨逸でも今日は地租を國稅としてしまつたといふて地租委讓の必らずしもよくない例證としたやうであるが、それは大戰後の遇然の出來事であつて、大戰がなかつたなら獨逸でも其儘にして置いたのであらう。兎角議論は我田引水になるが、これは注意すべきである。

二

地租委讓は政友會の提案で段々有力なる問題となつてきた、地租委讓其ものは何であれ、もと／＼農業者負擔輕減上有效なるものたるに相違ない、そして然らば地租委讓問題は之を實現せしむるやうにせねばならぬのは當然である、何故かといふと、農業者の困難及び農村の疲弊は今や計るべからざる運命に在ることは、何人も之を争はざる所であるから、従て此困難此疲弊をいやす所の手段は多少不完全であつても、之れが實現を急ぐべきであるからである、然るに此問題に就ては政府は主義に於て賛成である憲政會も主義に於て賛成である、但實行上財政上稅制上之を難

しとするといふてゐる、革新俱樂部は初め之を提案した位であるから、之れが實行に難きことなしといふてゐる、政友會は其之を實現せしめなければならぬ、而かも當然來年度から之を實現せしむる責任がある、一旦之を提案せる以上而かも政府も主義に於て之を非難するものなきこと明かなる上に、是非之を實現せしむるやう鞭撻すべきである、イヤそうせねば政友會の面目は殆ど丸つぶれとなるとみて差支なからう。

三

地租委讓問題に就て主義に於て賛成ならば之を實現するに骨折るべきは當然であつて、主義に忠實なるべきは苟くも政治家たるべきもの献身すべき所である、若し主義には賛成するが、之を實行するを避くるが如き爲ねするは、否其爲ねすることゝなるは政治家の耻づべき所である、斯かる政治家は所謂デモ政治家で排斥すべきである、斯かる政治家は之を府縣會議員なり國會議員なりの公的資格なきものといは

ざるを得ぬ、然るに實際に於ては公々然主義は賛成であるが云々といふて恬として耻ぢざるもの多々ある、之は何とかせねばなるまい、社會風教乃至は政治道德のため之を懲戒するの要あるを認むる、それには何が一番きくかといへば、實物懲戒に若くはない、實物懲戒といふは府縣會選舉なり帝國議會選舉に斯かる耻なき人物は之を選舉せぬことである、從來有名なる人でも從來功勞ある人でも一切之を平等視して、此實物教訓を與へて、今更農村人士の政治的社會的制裁の權威を知らしむべきである。

四

地租委讓問題に就て反對する者に主義より反對するものであらうが、先づ土地制度上、財政上及稅制上より之に反對するものである、其中土地制度上地租は我國柄に於ては當然動かすべからず、若し一朝之を動かすに於ては國本の動搖を來すが如く何だが大げさに解する貴族院議員などもなきにあらねども、是は何等か爲めにす

る所でなければ、洵にアナクロニズムに陥つた議論であつて、家族制度でさへ今日ては其基調に於て搖撼しつゝあり而して別に我國本がどうかなりかゝつたのでもない、斯かる社會制度でさへ既に時代的適應をなさねば存立することも出来ぬ様になつた、土地制度の變更が時代に適應する様になるべきは勿論當然であつて、土地制度の變更を以て我が國本など、結ひつけるのは、何か爲めにする議論であるといはれても仕方はあるまい。

財政上よりの反對論は探るに足らぬ、是は財政の現實問題に係るから門外漢などは口を出さぬ方がよいかも知れぬが、併し地租委讓は高々二千七百萬圓の遣繰りに過ぎず、よし之に加へて營業稅を改廢するとしても十七億圓の財政から之を遣繰りできぬとは受取れぬ話である、遣繰りは堅實な財政上運用上禁物だらうが併し遣繰りは堅實な財政でも差支はない、畢竟國政を監視して過誤ならしむることができればそれで政治家の任務はすむのであつて、一國の財政上是れより多きを望む筈がない

のではあるまいか、賛成論者には財政上地租委譲の出来ぬことはないといふ意見を發表せるものもある位であれば、これは主義に於て賛成にして、而かも事は日本全體の上に重要にして離るべからざる根本的關係のある農業及農民のことであるとするれば、一つ肌をぬぎてかゝるべきではないか、これ政治家の任務であらう、財政は死物である、死物は人の扱ひ様によりてどうでもよい、生物はそうはゆかね、どうしても立ち行く様にせねばならぬ、此點政治家は確かりと合點せねばならぬ。

税制上よりの反対はこれ亦大したものではない、地租は國税として地方税とすべからずとする理窟はありはしない、時と國々の事情により孰れにも之を改むべきである、要するに孰れにする方がよいか、國民の休戚上より判断すべきであつて、制度の善惡より判断すべきではない、兎角日本人は人よりも物を重んじ、生よりは死を重んずる心理的習慣傾向があるやうであるが、今の時代思潮より之を見て宜しく廢すべきである、小作制度よりは小作人の方が重い農業生産よりは農業者の方が重い

ではないか、税制よりは擔税者の方が重いのである、税制は税制其ものよりみずして、納税者の利害より之を判すべきである、税制の統一とか便宜とか、歴史とかいふ點より地租委譲の實行に反對するは、死物尊崇者であつて拜金宗と似たり寄つたりである、物より人を重しとする今の世にありて寧ろ拜金宗の方よいであらう。

五

要するに地租委譲は來年度より斷行すべきである、之を提唱した政黨の責任として之をなすべきである、自家の政府にならねばなどいふてはならぬ、我黨は之をゆるさぬ、そんなことをいふたら、政友會乃至革新俱樂部は自滅すべき運命あるものと斷ずる、人の痛いの誰れもがまんはできる、此がまんはあまり賞められぬ、國家のためだからがまんするせよ、などよくいふが、それは痛くない人のいふことであつて、大抵國家のためにもならぬ、まして人のためにならぬものである。

九、農村振興と農村經濟

農村振興と農村經濟

—

農村振興といふことは目下我が朝野の人士、苟も心あるもの必らずや留意する所の
大問題である。その所謂農村振興には二方面の意義を包含する、一は先づ農村と
いふ意義である。農村といへば一寸農業者の専有するものの如く考へらるゝが、其
の實は決して然らずして農業者にあらざるものも農村に居るのであつて、殊に地主
階級の所謂土地貸付業者を以て農業者にあらずとする釋義をとるときは、農村の非
農業者の數は益々多くなる、そして此非農業者の多くなるとする傾向は一方地主
の小作者となる數の多くなると同様に、多くなるとしつゝある。農村に於ける非
農業者の多くなるは農業では飯が食へぬからである、さうして地主の小作者となる
のも亦其實飯が食へぬやうになつた、若くは其土地を何等かの原因によつて生産上

乃至消費上賣却し去つたによるのであつて、其主原因は一つであると云ひ得るのである。然れば農村といふは獨り農業者のみの専有名義でなくて、其内容は非農業者を包含するのであつて、而かも其非農業者たる數は前述の如く増加しつゝある。又せんとして居るのであることを知らねばならぬ。既に農村といふ意義は獨り農業者の専有するものでないとするれば、從來の如く否今日でも農村に於て努むべきことは農産物増進乃至農業技術獎勵といふが如き事柄のみであつてはならぬ、といふことは謂ふまでもないことが推知せらるゝのである。

二

二は振興の意義である。既に農村の意義にして前述の如く農業者非農業者の雙方を包擁するものであつて、その農業者の數の減ずるは所謂主として飯の食へぬに原因するとすれば、農村の振興はどうしてもその經濟財政の整理乃至増進といふことであるべきである。農村の振興は農村の經濟財政の整理増進に在るといはゞ、人或は

其の偏狹を難ずるであらう。もとより農村の振興を論ぜんには、教育もあらう、道路交通もあらう、衛生保健もあらう、社會事業もあらう、政治方面もあらう、然しながら此等幾多の事業の振興は唯では動かぬ、其動く根本は經濟財政であるではないか、農村に在つて施すべきこと設くべきこと數多くあるが、その當局者の思ふが儘にならぬのは、財政經濟が許さぬから仕方がないとは、到る處萬遍なく聞く所である、果して然らば農村振興と農村經濟との關係は密接離るべからず、其關係は主たり従たるものである、一を措て他をとるべからずである。

三

農村の振興は農村經濟財政の振興に歸着するのである、然しながら財政のことは茲に之を差措き、農村經濟のことは之を農業者の方面と農村の方面とに分ちて論ぜねばならぬ。農業者方面のことは、之は他を待たず農村居住者自ら爲すことのできる事柄である。それは農業經濟と農家經濟とて之を網羅すると謂ひ得るであらう。

農業經濟のよろしきを得ざるため、農家經濟又宜しきを得ず、農家經濟あしきため農業經濟亦悪しからざるを得ず、此二者は相待つものであると同時に、又獨立して農業經濟は正しく其途にあつても、農家經濟然らずして農業の不振、農家の困厄を惹起すはもとより所在見る所であらう。

四

抑も農業經濟の宜しからざる原因はどこにある。農業者が其業務の經營を誤るかである。もとより經營を誤らずして尙其業務の根本に於て斯く爲らざるを得ざる原因あつて然るものもあらう。然れども多くは經營者其經營宜しきを得ざる爲めに出づるもの滔々である。然らば我が農業經濟の今日の困厄に陥りたるは何の爲めである。曰く生産費の増進其主たるものである生産物の代價の減少も亦あらう。斯くの如きは舊國の農業の得て免かるべからざる運命であらう。然らば我が農業經濟の困難を救ふの途は一は生産費の減少を圖ることである。此に關する統計數字は面倒

で無味であるから之れを省くが、其二は生産物の價格を高めることであらう、此二方面の仕事は反對の方面に働く性質のものであるが、其結果は農業經濟の救済に歸着するのである。何となれば生産費を減少すれば農産物は安くして販賣し得る筈である。農産物の價格を高くするを得ば、其原因は自然であれ人工的であれ、是れ亦農業純益を増すことを得るからである。然らば農産物の生産費の減少は如何にして之れを爲し得るか、農産物の價格を高くするのは如何にして之れを現はすのであるか。

五

多くの場合に於て農産物の生産費の増進は肥料と勞力との増嵩にある。これは農業舊國に於ては何處にても免かるべからざる現象である。施肥法は用途に應ぜる肥料を使用することである。値の安き肥料必らずしも安きにあらず、凡て物は用途に適應せるものでなくてはならぬことは謂ふまでもない。これは農學殊に肥料學の指導

する所によれば、其目的を達するを得るであらう、實際に於ては若し農業者自ら之を知らずば農業技師の指導を仰ぐを可とする、勞力賃の増進亦免かるべからざる農業の運命である。時に人力の勞働賃の騰貴は人力其物自然の性質により、將又商工業方面より勞働賃の騰貴によりて農業勞力の壓迫となる。人力は之を畜力と機械力によりて代替することを得。凡そ動物乃至機械の爲し得る仕事は人は自らなさず、動物と機械とに爲さしめ、人は動物乃至機械の爲し得ざる高級乃至精密の仕事に當るべきである。然るに日本の農業にありては人が動物乃至機械の爲し得べき、或は爲すべき仕事にあたりて恬然として愧ぢざるの類である。此事は實に日本農業の如き集約農業に於ては或は已むを得ざることなりとするも、早晚之を改むべきである之れがために農産額の減少生ずることありても已むを得ざるべし、人が動物の眞似をなすこと是れ日本農業の特徴の如く論ずる農業經濟學者なきにあらざるも、斯の如きは我が農業者を蔑するの甚しきものと謂はねばならぬ。我が農業者が四這になつ

て田草をとらぬとも、他に機械がなければならぬ。或は動物がなければならぬ。嘗て明治維新より時経ぬ中であつたが、故津田仙翁は津田繩といふ名をつけて奇的烈な稻花のフハーテリゼーションを抄取らせる花粉媒助の仕掛を考案して之を實行したことがあつたさうである。此津田繩は吹上御苑で明治天皇の御覧さへ賜つたのであつて、當時中々行はれたさうである。是れ嗤ふものあるべしと雖も其志は多くすべきである。文明の進歩は機械の進歩である。我農業に於ていつまでも人力的集約農法を行ふものであつたなら其運命や知るべしであると言言するを躊躇せぬ。縦し農業其ものは亡びずとするも、斯の如き農業法を行ふものは絶無ならんとすべし。農業の亡びざるは其創意と自由とあるからである、若し農業に此二者なかりせば、誰れか利益なき業務に營々として従事すべきものぞ、然れどもいつまでも水を呑んで生きんとは誰れもすまい、否出來まい。茲に於てどうしても生産費の減少を謀らねばならぬ、此生産費の減少は主として畜力と機械力との用途宜しきを得るに

よりて之を實現し得べきものであること前に述べた通りである。

六

生産費の減少によりて農業經濟に宜しきを得せしむるは用途に適應せる肥料を節用すると勞力賃を節省するに在る。而して勞力賃の節省は之を畜力と機械的の適用によりて實現すべしである。更に生産費の減少が我が農業經濟を豊かならしむる主なる動力であるが、農産物の價格を高めしむる人爲的政策も亦農業經濟を一時的ながらも救ふ方策であることは之を争ふことは出来ぬ。併しながら生産費の減少は農業者自ら自己を恃みて常に之を施爲し得べきもので敢て他の力を待つ要がないのである。然るに人爲的農産物價格の騰貴例へば或は米穀法の運用により、或は米麥關稅の復活によるが如きは農業者自ら奮つて時の政府を動かし、或は議會を動かして之を施爲し得べしとするも而かも之れがため他の産業方面乃至は米穀消費者一般の反感を買はぬとは限らぬ。消費者は固よりいつも消費者のみでなく同時に生産者たる

ものである。米穀の消費者は都市にあり、その生産者は田舎に在るを常とするが、田舎の生産者たるべきが消費者たるとは我邦の農業者中米穀の生産者であつて消費者と其利害を同ふすること小作農の如きものがあることは注意せねばなるまい。茲に於て農産物殊に米穀の價格の騰貴を策して以て我が農業經濟の緩和を實現せんとするは常に讃むべきことではないことになる。固より經濟社會に在りてはそれ／＼の社會階級それ／＼利害を殊にするが故に、各々黨を立て相争ふて其利益を保護するは咎むべきにあらず、却て益々激甚ならんを寧ろ望むべきであつて、階級闘争必ずしも忌むべきにあらぬこと勿論であるが、併し物の價格は一般に安きを欲せねばならぬ、安くして其物立行かぬことなき限りは安きを欲せねばならぬ。米穀安くして立行かぬときは、米穀は已むを得ない他より之れが供給を仰ぎ他の農業業務に従事することさへ望むべきではないか。而かも普通農業以外の農業は却て収益多く農業經濟の宜しきを得せしむる所以である。穀物の價格を高くして我が農業經濟を救

ふ方策は、農業者之が運動をなす敢て咎むべきにあらず益々其運動の奏功あらんことを望むべしとするも、實は讚むべきにあらず、それよりは穀物の價格を高くせずして、而かも農業經濟を救ふ所以の方策をとるをよしとする。そは農産物の販賣組織の改善である。販賣組織の改善乃至改造によりて我が農業經濟の救はるゝこと多大なるべきは、單に市場組織だけでも分明すべきである。生産者と消費者の中間に要りもせぬ多數の商人あることは、生産者の利益を減ぜしむる、即ち價を安く賣らしめ、而かも消費者にとりては高き物を買はしむる有效なる方法であることは言ふまでもあるまい。此農業者より販賣組織の改善乃至改造によりて生産者並に消費者の利益を保護する運動は天下晴れて反對なき公明正大なる、農産物の價格を安からしめ、而かも農業者の利益を減少するよりは、寧ろ増大せしむる方策であつて、最も賛成すべきものである。

七

農業生産費の減少と農産物販賣組織の改善乃至改造は最も公明正大にして天下晴れての急なる農業經濟救済の最善なる方法であるが、更に農村振興の一方面は農家經濟の改善である農家經濟の改善は家計の改善に歸着する、家政の改善は主として主婦の責であるが、主婦如何に善良なる家政に當ることありとするも、我が邦上下一般に見るが如き男子獨占の家庭であつては、到底主婦の力を伸ばすことは出来なす。これは農村に在りても男子自ら其獨占者の位置を去りて主婦をして十分に其手腕を揮はしむる様にせねば駄目である。農業經濟宜しきを得れば従つて農家經濟宜しきを得るのであるが、現在の我が農家の如き家制組織に在りては之を容易に望むことは出来まい。併しながら先づ農業經濟旨くゆけば自然に農家の經濟も餘裕を得てゆくべきものとみるべきである。

八

農村の振興は窮極農村經濟の振興である。農村經濟の振興は農業經濟と農家經濟

と其宜しきを得るに在ることは前に述べた。併しながら農村は獨り農業従事者のみで立つものではない、茲に於て農村財政は固より情緒に付すべきにあらずである。其詳しくに亘りて論述することはできぬが、例へば我國にありて普通教育の如き全國劃一的行政なるが農村財政を苦しむる所以の主なるものである。教育は其教育を施すべき主體によりて之を施設すべきのものである。然るに都鄙一般に劃一的教育をなすは誤れるの甚きものであつて、都會の小學校にありては體操は必要なるが、田舎の小學校にありては其必要なきものである。田舎には公園の如きものは必要がない、自然が既に立派な公園であつて人爲的公園の遠く及ばざる所である。之を極端にいへば都市と雖も規模大なる公園の必要はない、寧ろ山水明媚なる所に自由交通をなす施設をなすに若くはない、誰れにても如何に遠き所にも唯で若くは殆ど唯で行けるやうにすればよい、斯の如き方針をとれば今日の我が農村財政の救はるゝものはそれ幾何ぞ、或は山間の農村にありては水力電氣發動機の設備を町村にて

なすべきである。そして電燈乃至電力を農村に供給して以て人力を機械力に代はらしむる所謂工業的農業をなすもを作るべきである。農村財政の困難は全國劃一的行政の作る所であること斯の如く指摘し得るのである。

教育一つ丈けても全國劃一主義を措て農村には農村の要する教育、同じ農村でも亦それ／＼特殊的教育を施設すべき自由を興ふるならば、苟も當該教育の目的を誤らぬ限りは、之がために生ずる所の餘裕を以て交通衛生方面なり社會事業方面なりに爲し得ること綽々たりといふも過言であるまい、交通道路の整善を期することは實に其郡村の發達を必ず來するものであつて、此事は是非如何なる農村にあつても仕遂げさせたきものである。

其他農村經濟は單に農業經濟のみを以て充當すべきではない、其範圍内容がより大なるものであることは、その農村には益々多數ならんとする非農業者あることによりて之を指摘したるが、茲に於て農村に於ける勸業其ものよりも内務方面の行政

事項に就きて最も述べねば、農村経済をして全く宜しきを得せしむることは出来ぬのである。人多く農村といへば農と云ふ業務並に技術のみに注意するが如くであるが、これは大なる過誤である。農業に従事するには従事する丈の準備がなくてはならぬ。其準備は交通道路、運輸、衛生保健、市場販路、諸種の経済関係事項の整頓に待たねばならぬ、殊に農産物の如き重きものに在りては運輸の不完全は其業務の利益の大部分を奪取し去るものである。斯文若し農村経済の意義の概要を語るを得たりとすれば其任務了れりである。

十、農政隨筆

農政隨筆

一、農村文化と都市文化の問題

農村と都會とは多くの點に於て異なつて居りますが、第一いふべきことは一方は食物生産地であります、他方は食物の消費地であります、都會の人の血は濁つて居りますが農村人の血は清らかであります、都會の人は進取的急進的であります、地方の人は退嬰的保守的であります、いろ／＼ありませうが、此コントラストは農村の位置によつて甚だ異なるのであります、位置といふ事は都會との距離特に交通であります、都會特に大都會より距離の大き將た交通の便否によりて或る農村は其固有の色彩を甚だ失ふのであります例へば大都會附近の農村の如きは概して其固有色彩が薄くなつて居ります、農村が其固有色彩を失ふといふことは、農村の立場よりして喜ぶべきでありませうか、憂ふべきことでありませうか、試みに此事

之は喜ぶべきことであり亦憂ふべきことでありませう、先づ喜ぶべきは農村の文化が都會化することでありませう、所謂垢抜のすることでありませう、*コルフハインドゼントルメン*とは肉體ばかりでなく精神もアツパレ紳士的である意氣であります、先づ風貌だけでも俗にいふお立華になるといふことは近頃の農村人士になべて見らるゝ所であります、名は實の賓であります、併し又名によりて實が舉がるものでありますから此點も一概にけなす譯には參りませぬ。これはホンの一例に過ぎぬのでありますが、都會の文化に接觸すること多くなればなるほど開けます。開けるといふのは我儘を捨てるのであつて、これは一段と其道德があがつた譯であります、自我を全く捨てずとも從來の世間見ずの、獨よがりから離るゝといふは、どうしても世間と交はることの多くなる結果でありませう、社會的生活を味ふことが出來て社會公共心も高まる次第であります、一體日本人の道德は知合道德でありませ

して、公共道德は外國のやうに發達して居りませぬ、これが但し表面ばかりであるとしても電車なり汽車なりにわれひとりよければよしとする風の失せることは、お互に結構なことであります、道德が高まり同時にいろくの見聞も博くなるといふこと都會化の喜ぶべき現象であります。

其代はり惡るい方面の都會化をあげると、人情輕薄になるとか何でも利廻りを考へること、利廻りを考ふべき商業上のことならそれでよろしいのであります、其れ以外のことまで實は利廻りなどを考ふべきことではないことにまで、利廻りを唯一の目安とすること、働かずして食はんとすることなどは最も憂ふべき農村の都會化の方面の出來事でありませう、商業上の事柄は利廻りは結構至極いふまでもなくやるべきことであります、若し家庭内父子兄弟の間柄にありて利廻りを考へたなら如何でありませう、世間や隣保のことに利廻りを考へたら如何でありませう、家庭のことに利廻りを考へるとは先づありません、隣り近所の事柄になりますと動

もすると利廻りを唯一の目安として行動する人もなきにあらずであります。斯かる部落には其平和は見られません、縦し表面は穩かてありますやうでも底には奔流が潜んで居るのであります、働かずして食はんとする、俗にいふ旨いことをやる、都會には其やうな機會が多くありますやうが、田舎には殆どないのでありますから、此思想は農村に於ては絶対に排斥することになります、労働は快樂なりや否、直に然りと答ふるばかりにはなれませんが、喜んで労働に就くといふことは社會のため必要であります、家庭内に於けるが如き労働の風趣が社會一般に行はれるやうにありたい、望んで得られないことかは知れませんが理想として之をお互に實現したい、それには何でも彼でも利廻りを望み、徒手徒食を欲すること、一番禁物であります、働かずして儲けるといふことはお天氣師のやうなことで本統の投機はそんな淺墓なことではない、商業の極致は「スペキュレーション」でありますが「スペキュレーション」は天氣具合などで米價の騰落を見込みをつけるのではありません、然る

に投機といへばお天氣師といふやうになつて居るのは、甚だ憂ふべきことであります、一體人間の射倖心は抑へても抑へることの出来ない性分でありまして、我邦の神社佛閣には皆お天氣師のやうなオミクジがあります、勸業銀行の割増金も此おみくじであります、神社佛閣のおみくじは徳川時代三百年來の慣習でありまして今更競馬法案の馬券の人心を荒敗せしむるなどといふものは、殆ど我邦の民俗風習を知らぬものでありますやう、馬券があらうがなからうが違ひはありますまい、馬券を憂るならば我日本の國技たる角力、兩國國技館の角力なども憂へなくてはなりません、これを止めさせることにしやうではありませんか、筆が脇道にそれたが、つまり農村が都會化するといふことは大體に於て喜ぶべきことであります、農村が都會の様
に電燈化することだけでも農村は餘ほど明かなくなり、従て眼病などもよくなりませう、仕事も捗取りませう、況して動力を之にとる様になりましたら能率の増進は一層であります、農業者の品格もあがります。

農村の都會化の憂ふべきこと、喜ぶべきことを相殺し得るとしならば、どうでありませう、一體同じものなら比較も出来ませんが別のものを本統に比較することは出来ませんでありますから憂ふべきことはお互に心して之を避け喜ぶべきことはお互に相勵みて之を引入れることに致ませう、農村も都會も一日も早く都會並に農村並になりませう、其意義は農村文化と都會文化といふものゝ差別なく一體に缺點のない日本文化といふものを迅速に建設したい。都會文化、農村文化の惡いところのないものが、我が日本文化であります。

一一、帝國議會に於ける農業關係法案

イ

第四十六回帝國議會に於て最も囂しい問題であつたのは、農村問題であつた、農村振興に關する建議案は各派から提出された、法案も政府からも政黨からも出た、小

作調停法案、中央市場法案、馬券法案は政府の提出せる所であつて、中央金庫法案は政友會の提出である、中央金庫法案、中央市場法案、馬券法案の三者は上下兩院の協賛を得たが、小作調停法案は衆議院に於て小委員會の爲に握り潰しの運命になつたのである、前者三個の法案が議決せられたのは喜ばしいことである、中央市場法案は農業に關するのみにあらず、農産物を市場に於て販賣する途を附けるのであつて、農村も都市も之れが爲め益するところ大なるものがあらうと思はる、農村に於て既に政府の獎勵によつて出荷組合を昨年頃より組織して以て此中央市場へ農産物の提供に便することになつて居る、それで中央市場の建設せられたる曉、都會に於ける農産物の市價の多くは一定し、都會の消費者は之れがため從來よりも安き物を買ひ得べく、生産者も無用なる仲間者の手を省くを得て其所得を増すことになるを得ば、結構であるが、果して旨くそうゆくかどうか、心もとないといふのは、制度の腹案が出来ても運用は人のすることであるから、誠意を以て當らざる限り善良なる

制度も悪用されることになるからである、併しながら悪は到底善に勝つものではない、其はこう言ひ切つて間違はない、其の長短はあるにしても悪は遂に亡びざるを得ない此點は安んじて可なりである、若し善が敗ける社會であるなら其邦家は永久に立つて行かない筈である。

□

馬券法案の可決は馬匹改良上喜ばざるを得ない、純血種には「トレーニング」が是非必要であつて「トレーニング」をせねば純血種は退却種となるのである而して「トレーニング」の最も効果を奏するは競馬に若くはない、競馬を盛ならしむるには馬券に若くはない、馬券法案の可決を喜ぶの理由は茲に在る、馬券のたとへ民心を頹敗せしむる憂なきにあらずといふて、さういふことを憂ふるは實は講壇上のことであつて、實際は必らずしも其要はない、勸銀債券の割増も馬券と其範は同じである、何も別に大した弊害を社會的に見出すことはない筈だ、利害は相伴ふものである、馬匹改

良は兎も角、競馬の盛に行はるゝは中々勇氣を鼓舞する、之がため農村馬匹改良乗馬流行、外國農場に於けるが如くなるあらば農村の人士の愉快さこそと察せらる。

ハ

産業組合中央金庫法案の可決は我國産業組合のため、イナ中小農の産業者のため大杯を擧げて祝すべきである、勸銀農工二銀行も産業組合貸付をなすも、二行の本旨は不動産抵當貸付にあるものであるから到底十分には行かない、行かないどころかトント間に合はないのである、それは當然であつて二銀行を責むるものあらば、それは責むるものの無理である、今より二三年前勸銀農工の産業組合貸付をして産業組合中央金庫の機能の如からしめんとし否勸銀農工銀行も現行法規上亦此機能を相當になし得るものとして之を論じたることもあつた、卒強附會だとの説もあつたやうであるが、今はこれらの論はどうでもよいことゝなつたのは、洵に喜ばし。

二

小作調停法案は衆議院をすら通過せずに終つた、併し此案は其調停の効果を疑はるゝ理由もあつた、それは調停上強制力を伴はしめざるを以て、若し地主小作に於て其調停案に従はざるときは何等奏功がないからといふのである、去りながら一步を譲つて何等の奏功なしとするも、ないよりはある方がよかつたと思ふ、調停法あるがため却て小作争議を多からしむるといふ反對論もあつたやうであるが、さういふことがあるとしても、それは小作調停法を否決する理由とはならない、小作争議は他に相當の理由あつて起るのであつて其起因に付いて小作調停法とは何等の關係もないからである、小作制度調査會の成案は小作法案、小作調停法案、モウツ小作保險法案と此三箇の法案であつたと聞くが其中小作保險法案の早く成法となるを望むものである。

三、町村農會議員の選舉、附女子議員

小作争議に關しては小作人が如何に一生懸命になつて居るかといふ證據は新農會法によつて今回行はれた町村農會議員の選舉によつて之を知ることが出来る、それはどうかといふと、新農會法によると農會の行ふ事業中に「農業に關する紛議の調停又は仲裁」といふのがあるところ、農會議員は普通選舉の最も制限のない、農會員ならば誰れでも被選權があるのだから小作人は其階級より農會議員の多數を選出することに骨折らざるを得なかつた、多數の同志議員があれば小作紛議の調停又は仲裁に當りて己れ等のため好都合な案を得る可能性があるべく當にそれのみならず、萬事都合がよいからであらう、そこで、埼玉縣の或る村では小作人選出議員が多數を占めたのであつた、いづこの町村で皆が皆さうであつたといふのではないが、兎に角農會議員中小作人選出議員が多數を占めたものがあつたといふ現象は如何に小作問題に眞劍味を有するかを示すものであつた、それほど眞劍味を有すればこそ彼等は着々其主張を通すことも出来るのであると謂はねばならぬ、因に婦人最初の農

會議員藤目はる(四十一)さんといふのが愛媛縣大川郡小田村では最高點で當選したといふことも今度の町村農會議員選舉の一新例であつて、日本婦人も中々やるやうになつて來た、日本農業に於ては婦人は大部分勞力を提供するのであるから斯かる議員さんが出て婦人を農會に代表するは亦頗る重要なことである。

四、農事相談所と女子農業學校

去る頃文部省にて開いた全國農業學校長會議の收穫として最も注目されたのは、農業學校内に農業相談所を新設すること、女子農業學校を創設することである。うだ、現在でも農業學校が一種の相談機關となつてゐる所はないではない、現に熊本縣菊地郡の農業學校などは農繁期に教員がわざわざ生徒の自宅に出かけて行つて、その家族にまで指導するとの事である、そして其成績も見るべきものがあるといふことである。此農事相談所が兎も角農業學校の教員が獨り生徒にのみならず生徒の

自宅まで出向いて農事上の指導をするといふことは、よいことであつて、それほど熱心が學校の方であれば、自然に其さゝめが顯はれぬことがないに決まつてゐる。但農事相談所を設けさへすればそれで済むのではない。進みてやらなければ、成績を擧げることは出來まい何といつても献身的の仕事としなければなるまい、してみれば之を執處の學校にもおしなべて望むことは出來まい、献身的の人ありて始めて之を望むことが出来るのである。實に相談所が出來たら農業者の方から押しかけて之を利用するやうにならねばならぬのだが、我邦ではそれまでの熱心が農業者の側にあるかどうか疑問である。先づ多くはあるまいと思ふ。してみれば此農事相談所も相談所の方から押かけねばならぬ、マア押かけ女房の役をつとめねばなるまい、農學校も中々厄介な事を自らとはいひながら仕てかしたものだ。併し當局者にはそれぐ抱負もあり自信もあるとだらう、眞個に相當な功績をどこの學校も擧げて貰ひたい。農事相談所よりも女子農業學校を新設することを全國農業學校長會議が決議したこ

とは最も喜ばしい、實は女子農業學校乃至女子家政學校のことは記者は大日本農會報にも、其他の雜誌にも度々論述したのであつて、その始めは確しかに二十有餘年前であらう、それが今となつて農業學校長會議に上るとは、何となく世事はそいふものかと嘆息を洩らさしむるのではあるが、何にせ嬉しい。此女子農業學校も三重縣の如きは既に實行して、良好の結果を擧げてゐるとの事である。農村女子が都會に憧れてゐることは想像も及ばぬ程であつて、家督を相續する長女でありながら妹に譲つて、自分は東京で貧乏暮らしをした方がよいと云ふ有様だとのこと、これは併し皆が皆までそうではあるまい。そいふ女子もあつたに違ひないことを思はしむ、現に記者が見た或る縣の雜誌に農村の女子は農業者に婚嫁するを嫌ふ、地方青年たるもの豈憤慨せざるを得んやといふやうな記事を見たことがある。何でも中部日本の或る縣の有志者發行の雜誌だつたと思ふ。女子が居なくなる、イナ、農村の男子を嫌ふといふやうでは農村の有爲の青年を失ふことは當然であつて、事態

こうなつてはモウ田舎は駄めだといはねばならぬ。併しこれは大分懸隔があらうと思はる。もし果して之が眞實であれば、田舎はもう駄めだといふやうなものゝ、内心は喜ばずには居られない。それほどまでに農村の女子が向上したかと思はれるからである。郷土を愛する、土に親しむといふことは甚だとよいことであるが、人間到る處青山あり、故郷でなければ土に親しむことが出来ないのではないから、苟くも爲すあらんと欲せば何處にでも出懸けて行くに限る。その位の勇氣なくしては今の人間ではない、それがそのやうな向上心が女子にさへ芽出したとすれば、これは成る應て意氣地のない男子を奮起せしむる有力なる動機となるからである。これは成るべくそうありたいと思ふ。女子農業家政學校は是非立華なのを建て、貫いたいものである。ところが、それはいゝが経費の都合で、おいそれと運ぶまいとは何の事だ兎に角日本では賛成ではあるが、経費はどうだの、こうだのと直ぐ二の足を踏むのは悪い習慣である。よいことは直ぐやるに限る。経費などは直ぐ出てくべき筈だ。

五、農民美術と農村文學

長野縣神川村に日本農民美術研究所あり、美術家山本鼎氏の主宰するところであつて、研究所には傳習生の手になつて、筆硯箱やら、菓子鉢やら趣味的の作品が一樣に陳列されてある。その主任のはなしに、地方青年を郷土に留めるには今迄のやうな無味乾燥な生活を改めてやらなければならぬ。さういふ主趣の下にこの研究所は創立されたのであり、既に三四の傳習生を世の中に送りだしたとのことである。何はあれ農民美術研究所の主旨にしてみれば、農村振興の一端であつて洵に結構のことであつて、其益々盛大ならんことを祈らざるを得ない。記者は嘗て井上博士（東京府知事の時か内務次官の時か覚えぬが）に問はれたことがあつた。一體農村文學とはどんなものですかと、尤も記者は文學者でもなければ、美術家でもなかつた故、農村文學とはさういふものであるといふことを説明しなかつた。寧ろ出來な

かつたからであつたであらう。マサか浪花節だとも答へられなかつたのであらう。今此農民美術研究所の作品は飾り氣のない、粗朴な、原始的な、ナエーブなものであるといふことである。すると農村文學も矢張りさういふ範圍を出でないものであらうかどうか、學者の説も聴きたい。併し記者の考ふ所では、農の文學を論せしものには直ぐ原始的といふ概念を與ふるのはさういふものか、それよりは農村文學乃至美術に都市の偽りの多い脂粉タツプリに對して赤裸々に素顔的のものをいふのであらう、してみれば矢張り原始的、自然的の意味合ともなるのであるが、自然主義的であつて何でも肉感をそゝるものではあるまい。其邊のところはどうであらうか、農村文學乃至農村美術の眞髓乃至眞相を知りたいのである。

六、帝國農政協會と農會補助金

帝國農政協會なるもの、帝國農會の別働體となつて生れたといふことである、が

何故に帝國農會は其自ら立たないのか、何故にそういう別働體が必要なのか、曰く帝國農會は國家から、イヤ政府から補助金を頂戴してゐるからた。これはどうも眞相らしい。併しながら帝國農會は何故に補助金を頂戴してゐるから、農民運動を間接にやらなくてはならないのか、若し直接にやると夫が政府の政策になつて居る場合はいいが、そうでない場合には政府の忌諱に觸れるからである。忌諱に觸れただけで濟めばいいが、ヒョイとすると或る威嚇がくる、それが帝國農會の大に恐れる所であるのだ。威嚇とは補助金の廢止である、こう或る人は答へた、記者之を聞いて甚だ其意を解しない。補助金は國家の補助金であつて、政府の補助金ではない、國家は帝國農會を以て其國家の目的を達する上に於て重要不可缺の關係ありとなしたから補助金を交附するのである。帝國農會の運動が偶々政府の農政策と相容れるところであつても、それは國家の目からは孰れがよいとするか、これは誰れが決めるか、國家之を決めるのである。國家が決めるは即ち國民之を決めるのである。政

府何爲れど、國家の愛兒より國家の交附金を奪ふことがあらうぞ、答ふるものは齊東野人の言であるといはねばならぬ。若しそれ政府にして補助金廢止を以て己れを威嚇せば、帝國農會たるものは宜しく其補助金を弊履の如く之を捨つる勇氣あつて欲しいものである。補助金があるといつて同様の別働體を立てたところで内兜は段々見すかされてある。又其んな量見では何事もできまい、帝國農會たるもの進んで此農界多事るとき大に爲すあらんと欲せば、どうだ、其補助金を一擲したまへ、代つて出すものはあるぞ。

七、農民運動を旋回せんことをす

埼玉縣の北埼玉農村俱樂部は、其全國的運動を喚起するため、先づ左の如き宣言決議を廣く各府縣の同志に飛檄した。

宣言書

人類の必要品たる食糧生産に従ふ吾人農民は偉大なる使命を有す然るに今や營利本位資本主義の社會經濟組織は吾人の農業及農村をして沈衰せしめ死滅せしめんとす

吾人は農業一般の爲區々たる内争の愚を捨て一致團結して奮然輿論を喚起し全國的農民を旋回して農民の爲且は全人類の爲共存共榮の文化社會を建設せんとす

決 議

- 一、税制及行政整理と農民負擔の税減とを期す
- 一、農業資金の低利長期融通を期す
- 一、主要農産物の專賣又は最低價格の限定を期す
- 一、肥料の國營を期す
- 一、煙草並に鹽專賣元賣捌の町村移管を期す
- 一、選舉權の擴張を期す

一、義務教育費の國庫支辨及農村中學農民大學の設立を期す

一、教育の機會均等に依る農村文化の向上を期す

一、必要本位萬人勞働主義の經濟社會を建設し農業及農民生活を壓迫しつゝある

現社會經濟組織の變革を期す

右は東朝子の報ずる所である。全國的農民運動を旋回せんとするあたり意氣込中々堂々たるものがある。但し皆が皆まで一々期するのである、期するだけならだれにも期せられる、驚くまい。

八、地主の家を包圍す

大阪府三島郡山田村の小作爭議は、二月九日朝來、雙方共調停者に一任し、田植をなさず、唯成行を觀望してゐたが、村農會側は雙方の意見を聞き接近するやちなら當面仲裁に立たうと、先づ小作人側の意を聞いた處、本年三月同村の大地

主側砂金氏と小作人側に成立つた話、乃ち減免一割九分の小作人の好まぬ田地のみを返すことにして尙大字小川へ二百圓大字上へ七十圓出金した例によると、尙吉川氏が現に植付けた田もそのまゝ小作人に無償で作らせることを提出したが、吉川氏は本日迄に既に二千圓餘の貸銀肥料等を施したこと故、砂金氏並にはならぬと云ひ張るので、村農會側は今一息の所故、雙方とも少しづつ譲らせ、當面仲裁に立たうと焦つてゐるが、小作人側は夜に入り北河内郡農民組合百餘名の應援もあることとして、吉川氏邸の周圍を幾重にも包圍して示威運動を起し形勢險惡なので、村民は憂慮してゐる。ア、此村には警察はないナ。

九、大阪のお臺所を北海道の蔬菜で占領する

大阪市内一箇年の蔬菜類の消費高は約三千萬圓と云はれるが何とか之を安くする方法はないかと、府農務課で研究中、過般同阪井課長が、北海道方面に視察に出掛

けた所、北海道の百合根、牛蒡、玉葱、豆類、キャベツ、瓜類等は只管良好な上に收穫は二割から五割位ある見當で、品物は幾らでもある、殊に金時豆、玉葱、キャベツの如きは何れも見事なものばかりである。北海道産の野菜類は二三年前からぼつぼつ大阪に移入されたものだが、取引量が少いのと、多數仲買の手を経るのと取引方法は兩地商人間の理解が缺けてゐる爲めに、割合に安く買へず、安く買うても商人が以て市民の口には結局普通の値段で這入ると云つた形であつたので、今度商務課が肝煎役となり市内の各公設市場、百貨店の食料品部が今日北海道側ではまた道廳肝煎の下に出荷聯合組合が出来、兩者の間に直接大量取引を行ひ、安價な野菜類を大阪市民に供給する計畫で、各關係者を招待談合中である。阪井課長は語る、右の計畫遂行の爲めには、青森と北海道間の汽船聯絡の改造を要する點もあるが、之も鐵道當局と諒解を得、然るべき日と實現を見る積りである。北海道方面では大阪商人が不親切だとの評判もあるので、大阪方では此點を特に注意せねばならぬ、兎に角、

將來は大阪市内で消費する蔬菜類の大部分は北海道に仰ぎ、獸肉の大部分は支那方面に仰いで、副産物の經濟の解決をつける覺悟である。

ことは大毎紙の記する所であり、中々よい事である。何でも物は安く何人にも得られるやうにせねばならぬ、此に掲げた場合には生産者も消費者も孰れも内地人同志であるから、いゝが、これが消費者は日本人であつて消費する蔬菜を外國より輸入するといふのならうだらう、氣の小さいものには忽ち之に反對するであらうが。現に今の計畫でも獸肉類は支那方面に仰ぐといふのだから多分遼東方面から入れる積りだらう。こゝういふことはこれから日本が商工國へと進むに従つて段々多くなることであらう、其度毎に農民側は之に反對するであらうが、それともかまはぬか、多分かまはぬだらう、イヤ、そゝういふ筈はなからう、農民黨は米が安いといふて不賣同盟をなし、米の買上運動をして政府に迫つた筈だ。成る程そゝういふことはあつた、併しそれは米だからだ、何だか日本人は米だといふと無暗に騒ぐがその外

の農産物では騒がぬ、一部の學者などは騒いでも一向世間の注意を惹くに至らぬやうだ。日本では米さへてできればそれでよい、米農業を以て自任してゐる政府の政策もそゝうであつて、何でも米さへつくれば農民鼓腹擊壤のやうに思ひ込むのである。其實米の作付段別は桑等の栽培面積の増加にまけてゐるのである、米の農業は到底成り立つて行かぬ、米を作つてゐたのでは百姓は食へぬからである。そうなれば段々百姓は減らねばならぬ、減れば農産物は足らぬ勝となる、尤もこれは直ぐ様來るのではない、但其ういふ趨勢は免がれぬといふのである。そうすれば前掲大阪市の様な安い農産物を外國から入れるといふことはどうしても、免れぬであらう。日本農業も前途多事なるかなといはねばならぬ、多事なるは進歩發達する所以の途であるから敢て悲觀すべきものではない、否、樂觀してよいのである。

一〇、土地の耕鋤を忘れてる

土地の耕鋤を忘れてるかのやう思はるゝは、今時の農村問題の趨勢だ。農村問題は近來益々囂敷なつた、政治家、識者、學者が之をまくし立て、論じ立てるばかりではない。農村の居住者であつて、文字あるもの辯口あるもの、農村問題を筆に口にしぬものはない、といつてよい位だ。これまで農村では政治經濟のことなどは馬耳東風に附して只管技術にのみ没頭したものだ。それでは駄めだ。其の甲斐がない。農村のためにならぬとは、帝國農會始めそれぞれの農政機關が一齊に立つて論じ立てたものだつた。成る程それは當時最も時弊に適中して居つたのだ。このことは遠い過去のことではなかつた。ところが、藥が利き過ぎたのか、反動の反動か、猫も杓子も農村問題を口にせぬものはない位になつてきたのだ。由來日本人は極端に趨りたがる、此國民性のためとはいへ、我も彼も、鋤を投げ鎌を捨て、所謂農村問題に狂奔するが如きは、何等の益がない、のみならず害がある。もとより全く政治屋にのみ放任するは眞に讚めた咄してはないが、農村の人、皆が皆まで政治に狂

奔して農事を顧みぬ傾きあるは、僻事である、寧ろ農村人は悉く鋤鋤を手にした従前のたのもしい状態こそ、農村問題を解決する眞の道だ。地面を天地するばかりでは、株屋と同じだ。デスポニールだ、それでは富は毫しも増しはない。アッチの手よりコッチの手に移動するのみだ、富を殖やすのは土地を眞に耕鋤するに在るといふことをユメ忘るべからずだ。昔しフランス重農派(フヒジクラット)は地主をデスポニールだとして、地主には重い税を課すべしとした。成る程何にも役に立たぬものは居なくてもよい。イヤ居ない方が國家社會のためであるからであつた。我邦の地主諸君が若し土地の耕鋤を忘れて何だか役にもならぬことに狂奔するならば、矢張フヒジクラットは何といふてあらう、デスポニールと言はないだらうか。

一一、教育は可能で澤山だ

農業教育の議論も中々やかましい。教育費國庫支辨増額論は思ひの外今議會を賑

はすやうである。之は政治方面の所論をヌキにして、從來農業教育論に執着する一の病弊がある。それは農業教育の効果の問題である。農業学校の卒業生は無能である學校を出ても何にも出来ぬ。何にも出来ぬ卒業生を出す學校は存在の價值がない宜しく廢止するに若くはないなど短兵急に遣つて來るのである、これは得て日本人のやり勝の事であつて我が國民性の一大缺點である、學校卒業生が何も出来ぬといふて、すぐ學校設置並に教育の効果を疑ふなどは、片腹痛い。物の分らぬにも程がある。ソウ何事も一通りや二通りで、これが何の結果である、事は無いとハツキリ判明するものではない。學校卒業後何にも出来ぬと思はれた青年が。甚だエラクなつて郷黨を驚倒せしめた例はイクラもあるであらう。人生の結果はソウ初天邊より判明してはたまつたものではない。判るものもあるが、判るよりは分らぬといふほうが當つてゐるのである。これは誰れでも過去を回顧してみれば直ぐ否むことが出来ない。それであるから農學校の卒業生は何にも農事は出来ぬといふのは、出来

ぬのではない、見るものが出来ぬと見做すのであつて、其實は中々出来る可能性があるのである、教育は凡てが可能である。可能が直ぐ現實せぬといつてもそれは可能だから仕方がない。可能がありさへすれば、ソレデ、宜しい。此可能は可能であるから遂に仕出かすに違いない。これは地球大の印を押して保證が出来るのだ。ソレを地方の縣會議員などが懐中の勘定から、農學校廢止論を唱へたからとて騒ぐにはあたらない。馬耳東風に附すべきである。

一一一、農村婦人のために

日本の農業は古代から婦人によつて立てきた。婦人が居ねば夜が明けぬとは、實は農業は婦人の仕事であつたから、婦人がゐなければ世は暗黒であるとの意義であつた。男子は生活の資料を獲たが、それは山から海から獲た物に過ぎなかつた、海の物山の物は常に在るとは限らない。時にはシケがある、ところが、畑の物は播て置け

ば屹度收納があつた。播いた種子は屹度生へるのであつた。此屹度生へる業務に従つたのが婦人であつたのだ。だから日本は女が居ねば世は明けない筈だ、それほど我が農業にとつて女子は難有いのであつた。それは併し今日尙そうである。若し今日女子が田舎から去つたとなれば、田畑は荒廢するに決まつてゐる。これは何人も否むことは出来ない、事實であるからだ。獨り純然たる農業ばかりではない。彼の養蠶製絲の如きはどうかであらう。ソレこそ全く絶滅するであらう。それほどの農業に重大價值のある女子はどういふ風に見られてゐるか、この教育はどういふ風になつてゐるか、今日農村にあつて女子に養蠶業の學術を教育する所があるであらうか。先づ一も無いと云つていゝであらう。これは是非設けねばならぬ。農事と家政とを教授する所でのいのである。これは特設せぬともよろしい。男子農業學校に附設してよろしいし、又試験場の如きところで教授してもよろしい。傳習させてよろしい、其形式は問ふ所でない。要は實質である。ところが我が日本にて形式論者が中々多

くて融通がきかないにきまつてゐる、ソレから金がかゝつても、一つ立華な獨立した純然たる女子農學校を建て、欲しいものだ。

二三、彼我の農民黨

農村離民といふことは、どこの邦でも必らずあるのだ。唯其程度の大小で、その大なるものを農村離民などいふ激語で人をいどすに過ぎない。よそへ移住するといふは大底善いことであつて、唯それがために、その村が衰退するといふやうなイヤな現象が起らない限りは、之を推奨して差支ないであらう。フランスでも亦此問題が嚴ましいのである。フランスといふ國はどつちかといへば小農國であつて、云はゞ農工國であらう。世界大戰の勝利は實にフランス民の大部分を占める農民の不撓不屈の忍耐と英雄の犠牲によつて得られたのであるから、彼等農民は他の階級から感謝されたし、又同時に彼等自身の勢力と責任とを自覺して來た。そうして下院議

員五百八十名の中四百の議席を占め、而かもこれ等四百の議員は何等政黨に關係なく水も漏らさぬほど固く、結束して一團となり、農村問題に關しては、悉く確乎な投票をするといふことだ。ところで我邦の農民黨はどうであらう。マア農民黨といふものがあるかないか、からが問題だ。己れは農民黨だといふものはあるに違ひない。又農民黨を以て自任する政黨もある。併し形式は論外だ。其事實がどうであらうか眞誠に農民の肩をもつものが、農民黨である。その名は農民を冠しようが冠しまいが、それは問ふところではあるまい。今日では實際眞誠の農民黨はあるまい、ではなくて全くない。其證據には無職の代議士が多いのである。田舎を政治運動のため喰ひ詰めて、都會に出て辯護士稼業などをして居るものが多いのが唯一有力な證據である。辯護士をしてゐるのが何故無職であるか、職があるではないかなど、ムキに怒るものがあらう。ソレそこが證據である。人は境遇から全く獨立することの出来ない動物である。歴史は人の作るものであるが、歴史がまた人を作るものである。

る。フランスの議會も辯護士稼業及同類の代議士に依て支配された時代は、實際眞の農民黨はなかつたのだ。今日我邦の議會にドレだけの右の様な代議士があるか、指を攫る事にも當らぬ、ソレは分つてゐる中々お仲間が多い。それでなければアレほど口丈農村農民のためをかこつけて實際其成績の擧らぬ筈がない。これが何よりの證據だと謂はねばならぬ。ナントいつてもまだ、我邦には農民黨はない時代だ。

一四、チャールレス・チャップリンと メリー・ピックフォード

電氣は現代で最も便利なものであるから石油ランプか若くは古代の蠟燭しか知らぬやうな山間の僻地へ電氣を架設することは極めて必要だ。だが之と同じく活動寫眞も亦現代社會においては都會の婦女子を喜ばすと同程度に、農民を喜ばす娛樂的機關だ。浪花節を以て民衆とかの教化機關となさんとして骨折る人はあるが、此農

村活動寫真事業を經營するために幾分の經費を計上するものは無いか。フランスでは、最近農村電化事業費として六億法(七千五百萬圓)を計上した議案が議會を通過したとの事だのに。

一五、大豆粕を非常に安く買入るゝ法

凡そ農家が農業収益を高むる方法に二面あります、一は其收穫物を高く賣ること他は成るべく生産費を減ずることであります、此二面は孰れも農業の商業的方面であつて、苟も収益を多くせんとする農家は此二方面の商業行爲を合せて實行せねばならぬ、而して今日に於ては農家各自に此二方面を行ふよりは團體的に相寄りてする方威力も實力も大なりとす、即ち共同販賣なり共同購買なりを産業組合的に組織することが即ちそれでありませす、收穫物を賣るに例へば藪、穀類は農業倉庫を利用

して之を保管し前途價值の上る見込のものは出來秋に之を賣らず農業倉庫に之を保管し、若し金錢の用の時は倉荷證券によりて、一時融通を付け置き、機到來すれば販賣するのであります、勿論是は農家各自にても出來る事柄でありまして何も産業組合などの團體の力によらずともよろしと思ふであらう、成る程一應そうでありませす、我邦の如き小農では其買ふ物も賣る物も纏まりたる數量に上らぬ故、皆のものを纏めて大量となし賣買する方が便利であります、即ち利得があります、即ち商人に對して賣買値段を制することの出來る筈であります。故に組合を組織して原料品生産上の賣買をなすをよろしといふ所以であります。

斯かる賣買の方法はいふまでもなく諸地方農家諸君の既になし來れる所であつて、特に時局中にありては農家穀物を賣惜みをなすとして新聞記者より攻撃せられたのは諸君に尙耳新しい事でありませう、穀物の前途騰貴するを見込みて、今賣らぬを賣惜みとなし、何だか故らに農家が米穀を高くして消費者を困らす之を攻撃する

は、その事が農業經濟上農家の収益を多くする手段なるを知らぬもので、攻撃は當を得ぬものである、農家は生産品を成るべく高く賣つて収入を多く擧げんとする心底として、讚むべきのみ、攻撃するは間違つて居ります、折角農家の商業的方面に志したのを止めさせるもので、之れがため農業の發達を阻み、延ては國富を減少せしむる結果を來すべく、却て憂ふべきことである。

兎に角生産物を成るべく高く賣る、否、利益を多くせんとせば投機する外なし、併し正宗は切れる子供が之を遣へば指を切る、又遣ひ様では剪刀の如きもので、之れがため儲けやうとして却て大損をすることがありませう、だからと云ふて切れ物を禁ずるといふは實際出來ぬことであります、これは其危険なることを注意してやらせるより外ありません、併しどうも危険でやり悪いから他により安全なる儲け方あらば、それによる他ないのであります、それは人のよくいふ處の平均賣であります、即ち月々賣るのであります。

二

以上は農家が成るべく生産物を高く賣る即ち多く儲ける手段をのべたので別に耳新しいことではない、多くの農家の遣口でありませう、これから述べまするは生産費を成るべく減ずる方面のこととあります。

生産費は勞働賃と肥料費とが大部分を占めます、故に生産費を成るべく輕減するには人力を成べく機械力なり畜力に換へることとあります、機械力及畜力は人力より安い筈であります、それから肥料費であります、肥料費を成るべく輕減する方面に二つあります、一は其土地にて作物によく適する肥料を少くもなく多くもなく而も作物によく吸収攝取さる状態にて施給することとあります、是は重に農學の技術的方面でありませう、他は成るべく安く肥料を買入れることとあります、安き肥料を買入れることは肥料を安く買入れること、事柄は一でありませんけれども結局同じこととあります、用途に應じてそれ／＼有效なる肥料を施用することは施肥上肝

要なることであります、併し窒素肥料は如何なる場合にもなくてなりません、窒素肥料は色々あります、硝酸性窒素、アンモニア性窒素、有機性窒素を含有する窒素肥料がそれぞれあります、智利硝石は第一類であります、炭酸アンモニアは第二類であります、第三類は大豆粕の如きものであります。

此等肥料の講釋は措き、今度大豆粕は非常に安くなりませう、私は非常といひます、幾ら安い数字にあげていふことは出来ませんが従來肥料商の取扱販賣せる値段よりは大豆粕一枚に付き二三十錢乃至五六十錢も安く賣ることが出来ませうと思ひます、それに大豆粕其ものが安くなれば勿論であります、安くならずとも相場(賣の相場であつて、肥料問屋の申合相場にあらず)は其儘と見做すも、農家の手に渡る値段に於てそれ丈安くなる見込てあります、それは運賃、荷役、金利等の諸掛りを輕減するによりて生み出すのであります、大豆粕は滿州に於ける油房(製油所)の製造に係る油の殘滓であります、此殘滓を日本農家が肥料として用ふる

のでありまして、此大豆粕滓は冷却を待ちて直に盡く油房より滿鐵倉庫に送り込みます、滿鐵倉庫は之を混合保管致します、而て大連市場にて之を賣出します掛賣りは致しません、故に何人にも大連取引所に銀二十五錢の手數料を納むれば一玉即ち豆粕一千枚を買附くることが出来ます、固より仲買人の手を経ねばなりません、之れは吾々でも出来るのであります、故に若し買附に機敏でありますれば随分安く買ひ得られませう、之に運賃荷役諸掛りを成るべく注意に注意を加へて輕減するのであります、併し誰れにても買附けは出来ませんが機敏にやることは中々難しいであります、之はよし出来ても運賃荷役諸掛りを大に節約する様に海陸運輸機關を利用することは中々困難であります、又安い金利を用ふることは何人もよくする所とはいひますまい、少しの資金では當底出来ぬといふことは大連市場に於ける大豆粕の取引は數億圓に上りまする現況であります、二千噸の汽船に荷積する大豆粕一枚三圓替としては十五萬圓を要します三艘六千噸積めば四十五萬圓を要します、而

して大量を取扱はねば諸掛りを安くすることは出来ません。

更に斯かる場合に金利も中々大きうございます、だから成るべく安い金を遣はねばなりません、普通のコールでは遣り切れません、遣切れるとするも、それよりも安い金利にて済む金融機関がありますなら、それを利用せねばならぬのです、その機関は勸業銀行農工銀行であります、此特種銀行は農工業の改良發達上低利資金を取扱ふ機関でありまして産業組合又は其聯合には年賦又は定期償還の無抵當貸付を爲し、農産物を擔保とする手形の割引又は短期貸付をなし且つ産業組合又は其聯合會に對し手形の割引をすることになつて居ります、此點であります。

三

産業組合は今や全國に一萬三千餘、聯合組合數百二十六、組合員數百九十五萬九千名、出資總額二億二千四百三十七萬圓に上つて居ります、而して産業組合には八千の購買組合があります、其中大豆粕を取扱ふ組合は三千ばかりありますそうです

そこで全國の農家が消費する大豆粕は四千萬枚に上ります、其中購買組合の取扱ふ數量は千萬枚位であります、それで全國の農家を株主に持ち産業組合を相手とする大豆粕輸入販賣の間屋業をなす機関がありますれば前述べましたやうな大豆粕の安賣りが出来ますのであります、財團は千萬圓の株式會社となし四分一拂込にて營業します、大豆粕一枚につき金六錢の手數料を取ります、然るときは會社は年六十万圓の収益あります、別に大豆粕を製造する手段もなき故十萬圓位の經常費を除き全部運轉資金となります、そして産業組合の手を経て勸業銀行農工銀行の安い金利を利用致します、つまり斯かる方法組織にて滿州産大豆粕を廉價に輸入して産業組合、産業組合聯合會及農會等に僅小なる手數料にて簡便なる方法の下に直接供給し複雑な手數を省いて従來の大豆粕取引方法を改良するは農家經濟上の利益擁護となります。

一六、紳士の學問

四月は諸學校の卒業期である、農村の青年諸君にして其母校を出で、社會に立つものも亦尠なからぬのである、惟ふに此等の青年諸君は職に就かぬものもあらうが、蓋し銘々其學ぶ所を孰れの方面にか活用するに違ひない、人各個性あり其個性によつて將た境遇によりて其學ぶ所の活用固より一なるを得まいが、凡そ人の世に立つ、所謂人格者たるを期せざるはない、紳士とは何ぞや、此問に答へて人格者にして知識を備へたるものであるといはねばならぬのである、知識は主として理化博物に關するものと、經濟、社會に關するものである、而して此等自然並社會科學に關する諸知識は實に農學の教ふる所である、然らば則ち農學は紳士の學問であるといふの當然なるを知るのである、今や全國の諸農學校に業を卒へて出づる幾多の青年諸君は斯かる教養を受けたる紳士である、農學教育の振ふたる國家並に社會は幸

なる哉と謂ふべしである。

一七、農村と農民

農村振興と農民救済の聲は全國に轟い、農民の疲弊は即ち農村の衰退、農村の衰退は即ち農民の疲弊であるからである。してみると農村と農民とは相離して見るとは出来ない。所謂不可分である。ところが或は、農民がなくなるとも農村は存在する猶山河獨り存じて住民離反するが如きであるといひ、或は農村問題は農民問題ではない、それは別に離して論すべきである。農村振興ではなく農民救済であるといふ。成る程農村は農民の住居するところであつて農民以外のものもある。人ではない土地である。去りながら農民がゐなくて農村があり得るか、農民の安身立命は農以外の如何なるものに由て來るのであらうか。農は土地に依るより外ないではないか。若し農は土地以外に由て主として立つものならば、止む。苟も農は土地に依て立ち

農民は農を職としてこれ由るものとすれば、農村と農民とは離れることのできぬものである。論者の如く農村と農民とを離して見んとするは、農を土地以外の出来事とせねばならぬ。農民は農業に従はざるものせとねばならぬ。天下豈斯かる非なる事があるであらうか。若しありとすれば農村なくして都會のみの天下である。農村なくして都會のみの天下は果して在り得るとするも、そは永く存在し得べからざるものである。結局斯かる現象はないものと同じと見做さねばならぬ。農村問題の眞しきより故ら異を立つる農村論者否な農民論者以て如何となすか。

一八、農村の危機

穀價は安定せず、動もすれば收支を償はず、農民離村の現象は到るところ之を見る、こゝに農村の危機は叫ばれる、之を救ふ途は穀價の相當價を保ち、生産費の節減を圖り、農村にても都會並の文化的享樂を得せしむるに在る、談何ぞ容易なるて

あるが、さて實際となると、どうして穀價を安定せしむるか、どうして農業經濟の宜しきを得せしむるか、どうして農民離村を喰ひ止め得べきか、法律の力之をよくせず、國家もとより力の及ぶところにあらず、法律政治の力のみが之をよくし得べきにあらざるは言ふを俟たない、つまり農民自身の力にある、身治まりて家齊ひ、家齊ひて國治まる、孔夫子の教は洵に無窮、われを欺かず、今の世の者徒に政治の力にたよるなかれ、餘りに政治の力を大きくみるなかれ、先づ身自から治めよ、家を齊ひよ、自ら治め、家齊ひば村榮ふ、國家社會豈盛ならざるを得んや、農村の危機は聲餘りに大ではないか、縦し大であるにしても、徒らに政治家の口車にのるのみが能ではあるまい。

一九、農村問題の本義

農村問題は人に依つて色々に解釋するやうであるが、筆者は次の立場から之を解

釋するを正當だと思ふ、農村問題とは農村に居る凡ての人々が安樂幸福を得て正しく樂のしく安らかに暮らし得るやうにすることを意義する、或は政治的に或は社會的に或は産業的に或は家庭的に或は享樂的に或は科學的にそれ／＼思ふ所を満たすことが人々に出来れば、それで農村問題は解決するのであらう、そう筆者は解したい、地主と小作者の間柄が圓滿になつたからとか、農會の事業が捗取つたとか、作柄が中々よくなつたとか、村役場の仕事が旨く捗取つたとか、學校が立華に出来たとか、交通道路がよく整つたとか、保健衛生が完全になつたとか、小學校に運動場乃至體育競技場が出来たとか、色々な今迄になかつた設備が出来たからといふても、それはそれ／＼農村問題解決の一部を構成するものには違ひはあるまい。が、其内の一乃至は二つ三つが、ヤツと出来たからとて、それも甚だ不十分であるとするれば、それで中々農村問題は解決したのではない、農人農業の交渉する所は中々廣汎無限であるから、或る一部の人々、例へば政治に没頭する人達の盡力だけでは到

底其解決をみることは夢想するだも及ばない、それは政治、經濟、社會、法律、道德、家庭、諸般の一致協力的に待たねばならぬ、彼の農民運動の如き、冀はくば農村問題を誤まりたくないものである。

二〇、農民離村

農民離村は甚だ憂ふべきことのやうに考へられるが、それは程度問題で絶対に憂ふべきことではない、一定面積に居住する人口其度を超えて不十分なる所得しかない所にては、其人達は他に移るに越したことはあるまい、其地方に於ける産業の發達如何など考ふる違まはない、人の口の問題であるからである、人が口を糊すことが出来ないのに、そこに居ることはよくないにきまつてる、但國民の働くに適せる所が國內にあれば、國外に働くよりは、其國のためのやうに考へらるゝ、併しそれが果して其人の爲めになるかどうか果して國內に移りて従前より生活安定に餘裕を

得るかどうか問題である、故に國の内外に移住する標準は國內に移住して従前より幸福な生計を得らるならば、それに超したことはない、否らざる限りは國外に移住を止むることは出来まい、これは直ちに人の口の問題であるからである、若し國家が昔時のやうに人の生活の安定を保證すれば別問題である、これは動かすべからざる眞理である。

二二、農村の振興

「農村の振興」！今日の流行語である。流行語であるから何人も口にしますが、而かも何人も如何にして農村を振興せしめ得るかに就ては、信條をもたぬやうである。農村の振興は眞先に農村居住者の生活上の安定、社會上の秩序、政治上の公正を實にすることてなくてはならぬ。然るに今日では眞の生活上の安定なく、眞の社會上の安寧なく、眞の政治上の公正がないといひやう。農村人口の減少は則ち生活上の

安定がないからである。小作爭議や地主小主の衝突は社會的秩序安寧を缺かしむるものである。政治上の公正は獨り地主のみの參政制度では眞に之を見ることは出来まい。果して然らば、農村振興の談甚だ容易であつて之れが實行頗る難きものなるを思はねばならぬ。藝くは吾々は愛讀者諸賢と共に農村振興論者の此點に於ける學術的啓蒙指導者となりたいものである。

二三、日本流の經濟思想

日本流の經濟思想とはどんなものであるか。日本流の經濟思想を説明するには、英國流の經濟思想と比較するに若くはない。手取り早いのはなが、先年英國にセコシルク（縦に木綿、横に絹を織つたもの）が盛に輸入されたが、英國では苟も斯る交織物をシルクと名づけてはならぬとて排斥した。それがどうだらう。日本では先年一の富士絹が出来れば今では既に十五六種の模造品がある、之れがため本物の富

士絹さへ輸出不振の状態にあるのだ。英國では苟も英國の借りたものは、縦令、英國が、自國で遣はふが、他國が遣はうが、其内容が如何に使用されてもそれは問題ではない、つまり借りたものは返さなければならぬ。今度英露協商が破裂した真相は、此點にあるのだといふ。今の政府は労働黨政府であるが、此傳統の精神のためには、敢て露國の意を迎ふことをやらぬ。ところが、若し此ういふ場合、日本ではどうであらうか。比較にとるべき實例は知らぬが、大抵はそんな經濟思想の根本主義などにはお構ひなしだらう。これが日本流の經濟思想であるやうだ。

日本は何でも直ぐ模倣する。直ぐまねることを考へる。貨物の名前など、一字なり二字なりまねたのは澤山ある。アヤカルとかいふて色々まねをやる、其心根は矢張日本一流の經濟思想に出て居る。但こういふ日本流經濟思想は經濟の眞髓に觸れてるのではない。眞髓とは一時の利益でなく永遠の共同利益である。蓋し英國流の經濟思想の根本はそこにある自他の爲めである。筆者は近頃營利の體驗をした。

まだ日本には眞の經濟はないと思ふ。それは英國のやうに、商業國ではないからだ。

二三、一時期の表徴

今回の總選舉に顯はれた農民の自覺は、早晚我農民史上に一時期を劃するであらう、これは勿論他所でもそうであつたらうが、本記者は廣島縣に於ける知人候補者の應援演説に親しく携はり之を目撃した、比較的靑壯年の農民は理想選舉を標榜して手辨當にて幹旋運動に努め、眞摯熱烈であつた、これ他年農村指導者の鼓吹せるものであるとはいへ、偶々農村側の高唱してゐる農村困憊といふ有力な一般的宣傳的特別事情の之に荷擔せるあり、之と同時に實は新教育を受けたるものの既に農業に従事する時代となつた力である、概言すれば時勢の致す所であると云ふのが當然である、但し此際注意すべきことは勢の趨く所、農民が徒らに専ら自個社會の利益を

主張するに止まつて、他産業並に國家の調和を顧みぬことなどがあつてはならぬ、彼等の指導者は或る一の階級の代表者といふよりは、更により以上のものであらねばならぬ。或る職業に屬するもの達の味方でなく代辯者ではなく、更に天下のあらゆる職業のためあらゆる人間のための味方であり代辯者であるべきこと、之を否むことは出来ぬ。

一四、養蠶興國

明治の初年にあつて福澤諭吉翁は日本の田を桑畑にスツカリ直し、米を作る事はやめて養蠶製絲の國と身代を變へよと國民に忠告したとのことであります。此忠告は當時途方もない大膽な論であつて、我邦で米を作るのをやめて蠶のみをどうして飼へるだらうか途方もないと深く考へもせず一概に所謂之をケナシ去つて來た、併しながら其後の我農産業に於ける自然の經過を尋ねますとナンダカ福澤翁のいふ様

にだん／＼となりつゝありはすまいか、若し讀者が養蠶製絲戸數乃至人口並に其生産價值にかゝる統計を挙げたならばハ、ア、サウカナと頷くであります。我邦一般の農家は單に米麥を作つた許りでは人並に生活してゆけないのであります。副業として養蠶製絲をして居ります、ところがゆく／＼はそれがあべこべになりはすまいか、福澤翁の名をなさしめはすまいか刻々と其懸念があります、併し此懸念はソナニ憂ふべきではありません、人生よりみれば却て喜ばしいものと思はれます、養蠶興國の語ある所以であります。

一五、農業國と商業國

農業國と商業國と孰れが立國の方針可なるかに就ては、獨逸のワグナーとブレンタノとの間に嘗て激しい論争があつたことは學界に於て知られてる。成程食糧を自給することは結構に違ひない、だが食糧の自給によつて食糧の直段が上るやうでは、

餘程考へなくちやならない、食糧の自給と同時に食物の直段が下らぬといふならば考ふる迄もないことである、農業國と商業國、それ／＼長短がある、筆者は此頃日本橋の丸善で或る外國雜誌を買つた、それは、七月號であつた。それから銀座の教文館で八九兩月を買つた。ところが七月號は八十五錢であつて八九兩月號は七十錢であつた、全體古るい方が安かるべき筈だに新らしい方が遙かに安い、こんな顛倒した話はない、どういふわけであらうか、マサカ丸善が暴利を貪ぼるとも思ひない、また教文館が故ら損をするとも思ひない、教文館はアメリカ人が經營してゐる書肆である、丸善は言はずと知れてる、日本人が經營してゐるのだ、サアそこに安かるべきが高い理由が潜むのであらうと思ふ、之を反譯すれば農業國と商業國の差違から來る所の結果である、物の價の高いのは望まない、安くするのは經濟政策學の理想とする所である、それが農業國では動もすればさうゆかぬ懸念がある、つまり農業はキモノを着て働らいてゐるのである、品はよいがそこに損が潜むのである、讀者は

孰れをとるか筆者は物を安く欲する意義に於ては商業國をとらねばならぬ。

二六、農民倫理

農民は其業務として自然を對象とする、その自然より遠ざかり土より離れたるものは眞の農民ではない、眞の農民は自然を友とし正しい道義を踏むものでなくてはならない、然るに現時の農民は自然を離れ土より遠ざからんことを欲する、斯くせねば貨幣を獲得することが尠ないからだといふ、これ人として今日の収益經濟時代では、己むを得まい、獨り農民のみを咎むるは酷だ、併しながら筆者が或營利の體驗により農民に接觸せる機會から考察し得た所によると、今の農民の倫理は眞の農民倫理より離るゝこと最も遠く、徒らに都會の貨幣慾に囚はるゝことが甚しい、寧ろ都會民の倫理より墮することが甚しいことを思はしむる、貨幣慾は眞の商業思想より體得したものであつて、唯徒らに利慾心に基づくべきではない、然るに單に自己

利慾より貨幣を手に入れんとする農民、これ最も唾棄すべきであつて、斯かる倫理に囚はれた農民によつて農業は其眞の使命を果すことは望み難い、寧ろ斯かる思想は農村より早く離れ去り、離るれば離るゝほど眞の農民に依つてのみ、自然を樂しむ農民に依てのみ斯界の生命は維持せらる。

二七、商人倫理

營利は尊とい。之によりて人は動く。併し營利の觀念の動き方は人による。そこで卑しくもなれば、尊とくもなる。日本の商人はどつちだらう。之は營利の體驗によつて確かしめるに越したことは無い。筆者の體驗によれば、日本の商人はまだ眞の商業國を形づくる段にゆいてゐない。由來我邦は生産の國であつて通商の邦ではない。これは徳川時代三百年の歴史が之を證する。併しながら徳川氏の禁壓政策でも通商を抑へることは出来ないで、遂に町人が天下を取つた。武士はまけた。然れ

ば通商は抑へても伸びるところは伸びる。その伸び方が果して正道をゆいてゐるか邪道に入てゐるか之れが疑問のところだ。我商人が餘り其利慾主義であることは、その邪道に入れることの證明だ、その然る所以はどこにあるかといへば出来ぬ約束をするからだ、出来ぬなら出来ぬとハッキリ受答すればよいものを曖昧に受答する、これが萬事邪となる根原だ。此點を悔改めぬ限り、我邦は眞の商業國と成るとは到底出来ぬ困つたことだ。

十一、農村體育

農村體育

一、農村體育熱に就て

近時我邦に於ける體育熱の盛なることは、専門の體育雜誌があるばかりではない新聞紙といふ新聞紙は毎日其一面の大部分を體育記事に充てゐるのをみても直ちにうなづくことが出来る、その他社會一般が體育熱にかゝつてゐる、勿論文部省でも體育を奨勵してゐる、それは國民の體育の善良なることは、國力の旺盛を來す根原であつて且つ國民各自の幸福でもあるからである、さういふわけで國家が體育を奨勵する、それもそれが國家のためのみであつて、毫も國民各自のためにならぬことならだれも之をみんなて持て囃しはしないことは明かだたとへお互のためになつても、面白くなく表面のみ楽しいつらをする様なことであらうなら、それは國家のため乃至自分のためだといふても、こんなに旺盛を極める筈はあるまい、何といふて

も、愉快なのは體育競技である、競技と體育とを切離せば、決してこれほど愉快ではあるまいされば體育は面白い、爲めになるといふても競技といふことが少くとも、然らしむる主原因である、とこう門外漢は思ふのである。

一體人間は理窟ばかりでは生きることは出来ぬ、たまには不理窟を飛ばさねばならぬものである、或る縣で厳格な校長さんがあつて、或る女學校の生徒に農業を習はせるといふて、市街に馬糞さらへをさせたといふことを聞いた、之は成るほど實習であらう、理窟は全く理窟だ、併し女生徒が態々市街に出で馬糞を浚らうとは何たることであらう、これでは却つて農業をいやがらせるものだ、結局目的の實習の甲斐はない、それよりは農場のお諸^{いも}を喰べさせた方が、生徒は喜ぶばかりか、教室に於て農業科に餘程精を出すであらふ、人間といふものは生徒であらうが、誰れであらうが、先づそんなものではなからうか。

そこで、物を習はしむるに、いやがらせてやると、之に反して喜んでやらせる

と、孰れが其學問の効果があらうか、イヤイヤやつて居ては、どうしても身が入らぬ、學問の仕込はむづかしい、仕込んだから、それでそれが皆消化されるものではない、却て不消化となつて其儘排出されて仕舞ふ、多少は消化されるが、不消化の學問は害をなさぬとも限らぬ、それよりは喜んで實習をさせて少しでも十分に仕込むといふことが、教育の目的ではあるまいか。

此の意義からして今日農村に於ける體育熱が高まり過ぎて、多少肝腎の農事の妨げとなることがあらうが、そこがそれ理窟ばかりでやつてはいかぬところであらう、誰でも好き喜ぶことは好い加減で納まるものではない、好加減にすると、餘程興味がそがれるものだ、殊に競技といふことは、相手に勝つのが主目的だ、對手を打まかすことにならねばならぬものである、凡て勝敗は例へば碁、將碁で夜をふかすものはザラにある、學者でも政治屋でも随分之れがため翌日眼をあかくして出かけてくるものはあるのである、まして學生もや、彼等が競技をするのである、體育

は體育であるが、それは勝敗を争ふのである特に學校と學校との對抗である、一生懸命であつて、學事などはソツチのけとなるは當然だ、その位熱せねば體育の効果はないのだといふても過言ではあるまい、既に體育を許るして、競技をゆるして、ソウして熱することを許さぬとは、去りとはどうよくなと謂はねばなるまい。

嚴格な聖人は中庸を守ることが出来やう、併しこれは普通の人には無理の註文である、無理を強ふことは避けたい強ふる人が若し強らるゝ側になつたら到底堪へられぬものだ、我等は相當に餘裕があるから尤もらしく紳士然としてゐるが、若し貧民窟の貧から盗みする境遇の人となつたら、果してどうしたらうか、此境遇に實際立つてみなければ本統には分らぬといふ方が正しいのではなからうか、境遇といふことは、體育なら體育に當る、即ち競技者の境遇にたゝねば、眞の心持ははたからは分らぬ、さういふものだ、熱の出るものを熱の出ぬものが、出させぬといふても、ソレはてんで話しにならぬものではなからうか。

二、アメリカの各種體育技の發達

アメリカは今や排日を施行せんとして、世界的物議を招いてゐるが、之は日本に對する彼の第一の打撃で、果してアメリカが「スコア」を得るかどうか、我々も仲々丹田を落付けてかゝらねばならぬ、其れに付けて記者は固より體育技には全くの門外漢だが、此際ウラルター、キヤムプによつてアメリカの體育技術發達の績を辿るも亦一興であらうと思ふ、何等かの得る所があれば尙更幸である。

今より二十年前程前はアメリカで體育運動に力を入れた人でも、最早競技は其頂點に達した、そして振子は他の方面に向くのではなからうかと、稍躊躇の色を示したやうであつた、それで多くの人は一時體育競技は興味も一般の進歩も等しく寧ろ下り坂であらうと信じたのであつた、例へば「フットボール」に對して世間の非難は非常のものであつて、此遊戯を禁止する色々の法制さへ發布されたのである、青年

の心は「テニス」より「ゴルフ」に移り當時此兩遊戲に對する興味は何となく薄らいだのであつた。「ベースボール」は或る疑心と躊躇を以てみられ、之れが爲め既に流行しつゝあつた「ポロー」(打毬の一種)も「チーム」が「チーム」へと人心の離れ又散る結果を感じ始めたのである。

併し斯くも當時歩調の衰へたのは單に暫時的であつた、そして凡ての遊戲運動は進歩に於ても興味に於ても非常のものとなつた。一時「テニス」を見捨て「ゴルフ」には入つた若い人達が再び「テニス」に歸つたのみではない、同時に雙方ともやつた、「ゴルフ」は老幼ともにやりだした、南から西の、方それから東方にかけて益々流行したのである、「ベースボール」は一時興味をもたれなかつたが、運動の歴史に於て未曾有の流行をみ、地方的であるばかりでなく、世界的に候補者としての指導者としても其名を擧ぐるに至つた、「フットボール」は一時世間の重き非難より免れて今度は安全な、そして眞面目な遊戲としてもはやされた、其攻防の均勢といふ

ことによりて以前よりも老幼のなぐさみにも競技訓練にもモット興味あるものとなつた、見物人にとりては更に興味があつたことは、大學などで家庭的「フットボール」は頻りに行はれて爲めに運動場を一般的に、公開することが出来なかつたといふ事實でも分かる、「ポロー」(馬上球戲)は嘗てもあつたが、更に國際的競技として公衆の興味をそゝり二十年前にアメリカの「ポロー」競技者は英國人の最優勝者と肩を並べたのである。

アメリカの體育運動技が如何なるはたらきをしたか、その性質に就ては、十年前と今日との位置に就て少しの研究をすれば、各遊技の或發達の經過を辿ることが出来るだらう。「ゴルフ」は就中最大進歩を遂げた、それは遠くまで飛ぶ球が製造されたいめである、又アメリカに於て「ゴルフ運動場」は非常に進歩改良された、一年の長さに亘りて遠征隊の競技をつゞけるための費用は數萬圓に及んだと計算されま

す、有名なワルター、ゼイ、トラヴスは風、天候、運動場といふ種々かはる條件に

めけず、尙斯界の最優者ではあるが、若い者の方が老者に漸く優勝するに至つたのであつた。そして英國のヒルトンなども或る條件にては別に恐るゝに足らぬ位であると思はれた。

「ベースボール」は職業的には特に手捌きの早さと切り上げのきれいさつぱりの點で改良せられた、が「アマチュア」の方は割に進歩しませんでした、學校競技は必要以外にのろくさく且つ勝負が長延いて、觀客退窟を醸したのと勝負が眞劍でない點は、「職業ゲーム」にかなはぬが、併しながら學校としてある地方では注意すべき改良をいたしましたのは嬉しうございます、そして學校的運動の弱々しいといふことの自覺は其弱點に向つて改良を進めつゝありました。

「テニス」ではウイリアム、イ、ラールンドが恰も二十年前より第一の勝者であつたといふことは著しいことである、それは併しアメリカの「テニス」が進んだと同じ歩みでラールントの技も進んだのであります、ラールントは七回優勝し引續きて

五回も優越しましたのです、争ふことのできませんのは青年の「テニスメン」は當然ラールントを破ぶる丈技が進まぬのであります、併しそれでも左右翼とも進歩してきました、そして十四五年前よりして青年男女全アメリカどこでも其技倆が確かりと上達しました、太平洋岸からバンデイやマクラウリン並にロングなど「ゲーム」に加はりミス、メイ、サットンやミス、ハゼル、ホッチキスも來り遊んで、その氣候の關係上年中競技によつて得た所の東方の教訓を授ける所があつたのでした、アメリカのラールントやマクラウリンやライトは「デビスカップ」争覇戦の豫備戦で英吉利「チーム」を破りましたが、アウストリア「チーム」に最後の戦に於て破れましたのです。

水泳でキャプテン、ウェップに對抗する人ができました、一八七五年以來英吉利海峡を泳ぎ切つたそのウェップのハンデチャップに倍する計畫を、一九一一年七月に英國ヨークシャーのウイリアム、デ、バーゲッスが仕遂げました、英吉利ドーバの

南端より佛のグリッネッツ岬の東方二哩のラ、シャールテユル迄直徑四十哩の遠距離游泳であります、その實際はバーゲツスは恐らく六十哩以上泳いだてせう、そうした時間は二二時三五分かゝりました、それをウエツプは一一時間一五分で泳ぎ切つたのでありますが、潮流はウエツプに好都合であつたのです。

普通の水泳では十三年前シ、エム、ダニエルスが全アメリカのレコードを持つて居りました、世界的レコードとしては短距離になりますとダニエル次に次でアウストリア人キイラン及ロングウオースが「アマチュア、レコード」の數多き持主であります。

オリツムピツク競技では漸次興味が加はつてきて居ります、國際的不和といふ不幸な事情があるにも拘はらず競技者の増加、運動に係る理解の不斷の改良、「レコード」の性質及改善に其存立發達を持続すべく期待されて居ります。

一九〇〇年にプトネー、モルトレーキ間の路程をカムブリツヂ水泳團が一八分四

七秒を以て泳ぎ切つたことは、よし事實でないとしても、先づ十九世紀末に於きまする進歩の一現象として之を祝しませう、それは一九〇一年乃至一九一一年間の「レコード」では同路程を一〇分と二九秒で泳ぎ切つたのでありまして、之は争ふべからざる「レコード」でしたからです、カムブリツヂのジウスカレッヂは白耳義のセント競漕俱樂部をセントで打破ぶりしました、それは一「マイル」五五〇「ヤード」の距離を六分と三二秒で泳ぎ切つたのでありまして、大した成績であります。

「ボートレース」ではアメリカには八權漕團の速度が進歩した證據は一もないのであります、コルネルがバツフキープシイで恰も二十年前に一八分五五秒半といふ「レコード」が對抗者なしであります又一九〇九年にコルネルが二「マイル」を九分一一秒五分の三でした「フレツシユマン、レコード」はまだ壯年のボート團によつて打破れません、唯ペンシルバニア組が八列權でスプリングフキールド二「マイル」

路程に九分と一〇秒五分の二〇かゝつたことはあつたのであります、併しながら十九世紀中でアメリカの競漕團は數でも競漕の量でも大進歩を呈しました、ヒラデルヒアでは「アメリカン、ヘンレー」は一組織となり大學競漕團は更に遙かに夥しくなりました、プリンストン大學ではカーネギー湖の利便あるがため、再び漕手團を作りハーレム競漕船をつくりました、それから國立アマチュア競漕協會では年々競漕を催ふし入場者蟬集し甚しく興味を以て迎いられて居ります。

「フットボール」の大學聯合競技は批評やら絶へず規約の變更あるにも拘はらず、凡ての大きな大學並に陸海軍大學に財政上の厄介を招來するほどな大範圍大規模にまで成長したのであります、どんな見物臺、否、最新式の競走場でも觀客席を供給しきれぬ位であります、そして今日計畫せらるゝ同様の工作物で五年毎の觀客増加率に應ずるには六萬より少なからぬ座席を準備せねばならぬとのことです、ところがこれが十年前では其半數丈にて十分であつたのであります。

體育遊技は其れ自身精神に於てよいのであります、絶えず増加するその弊害の論理的發達より生ずる變化状態に其自らを調節すべく要求せられてゐます、又競技の弊害中著しいものは減少するやうでありますし、それから競技者の數も年々増加しますし、ですから競技規則などの變更などがあらうとも、今日の最も勇壯な體育競技に向つて、アメリカ青年の熱心をくもらすやうなことは、あり得ないやうであります。

ラグビー式「フットボール」は第十九世紀では太平洋岸で流行し東方諸州で所謂「サクサア」又の名「協會フットボール」が多く其興味を加へて來ました。

又氷「ホッケー」も更に速かに盛かり出しました、尙冬季遊戯として氷上遊戯「カルリング」がカナダ最寄りに這入りこんできました「クリケット」は「ベースボール」のやうにアメリカ一般の青年の性質には向かぬやうではあります、その本來の價值よりは寧ろよりよく發達しました「ラクロス」は「クリケット」と同じや

うな發達をいたしました、此競技には一體まだ多くの歸依者があつてよい筈であります
が、其れ程歸依するものがありませんでした。

「ラケット」
「コートテニス」及び「スクワッシュ」特に後者を遊ぶものは夥しく
増加しつつあります。

「ポーロー」はハーリー、ホイットニー及びルイズトットダードのやうな人達の
盡力で十九世紀に於きましてアメリカ體育史に曾て見ませんでしたやうな流行と承
認を得ました。

英吉利で勝ち得たアメリカ「チーム」の勝利は其後引續いて最も感動的な競技が
ありました益々興味を惹起し一般民衆的になりました。

「トラック」競技では益々其高さが増して六呎六吋八分の一高飛「レコード」があり
ます、プリスタインは二四呎七吋四分の一幅飛のレコードがあります、「スプリン
ツ」ではアメリカは百に向つて九と五分の三それから二二に向ては二一と五分の一

に止まつてゐます一九〇九年にラウンジは半哩を一分五二秒五分の四にまで減しま
した、其後又ジョンにてはコルネルは一哩四分一五秒三分の二ベルナは二マイル
九分二五秒五分一にまで減じたのであります。

「ハムマー」及「ショット」ではマクグラスとローズがそれ／＼一八七呎四吋及五一
呎の「レコード」を作つた、併しながら一九〇〇年にマツキイ、ロングの四七秒五分
の四の四分の一「マイル」の「レコード」、それから一八九八年のクラインツラインの
「ハイ、ハードル」で一五秒五分の一といふレコードに其儘誰れも對抗なしで通つて
ゐるのです。

そこで、どんな觀察者でもよく注意するならば、アメリカでは凡らゆる體育遊技
が其理想境に向ひつゝあり、常に特別な型式が高度の能率に發達するばかりではな
い又體育に興味を有し之を享樂せるものも速かに増してゐる、でモット運動場を提
供せよといふことは世間の叫である。體育に實際加はつてゐる人のためにモット運

動競技場をこしらいて貰いたいとは小中學校でも大學でも要求してゐるそれでアメリカ中、運動競技場設置運動の氣勢を擧げてゐることは、男女兒童のために、彼等が嘗て決して享受したことのない體質の發達及健全な室外快樂を味はせる機會を期待せしめて居ります。

我が日本ではどうてありませう、アメリカに猛省されたいと思ひます、これが決論であります。

アメリカの體育運動並其成績は流石に見るべきものがある、今度のオリムピックでは第一等で、競技者の數も世界第一であるが、其優勝者も百五六十人を數へてゐる、之に次ぐは英吉利などであるやうである、我日本では今回始めて競技者を出したに過ぎないくらゐだから、優勝者の數多くあることを望むのが、既に間違の様である、その優勝の仲間入りが出来なかつたのは寧ろ當然であらう。それは誰れもそう思うほかあるまい。そんなに劣等な成績を得たのは、或は劣等でないかも知れな

ら、その劣等といふのは他國に比べてであつて、日本從來の體育運動の歴史からいへば、餘程思つたよりも優等の成績を競技者が顯はしてくれたのかも知れない、門外漢たる記者は之を何とも言切れぬのである。

兎に角右の記者の決論のアメリカの體育競技の發達に目覺て欲しいといふのは、之をみて我日本でも體育などは、ナニあれば職業チームのすべきことであつて、我々のなすべきことではないなど、例の日本人氣性の武士はくはねど高揚子氣取りは眞平らごめんである、やる位ならそこまで徹底的にやらなければなりません、既に競技である勝負を争ふのである、何も錢をとるとか、入りをとるとかいふ、その根性でなければ勝負を争ふことが出来ぬものではない、これは争ふことの出来ぬ、誰れも承知すべきことであるが、併しそこまで行かなくてはならぬ、これは武士道精神と兩立することが出来ぬものと思ふものがあらば、それは本統の武士道精神ではない、負ても勝つてもかまはぬがどこまでも勝たねばならぬ、どこまでも世間

の注意を惹くやうにせねばならぬといふ、世間的の精神はあるべきである。

そうでなければどうしても勝負の精神は徹底せぬものである、やる位なら徹底するまでやれ、ナマ半可ではいけないと記者はいふのである、そのどこまでもやる、これは何によらず我が武士道の精神である、スポーツマンスピリットであると申すのである、尤も此處に申したやうな精神は既に世間の人達殊に學生間では之を實際にせうとつとめられたやうであつた、然るに學生のかゝるプロフェツショナル的チームを組織することは、動もすれば害の之に伴ふことを恐れて、文部省は之を許さなかつたやうに記憶してゐる、これは或はそうかも知れぬあまり藝人氣質もほめられぬそれが學生のすることであるとすれば學生なる品位と權威を失墜するからである、おやぢの地位にある文部省の之を許さぬは當然であらう。それで併し引込むといふのは徹底的といふ精神に背戻するものであらう、それは一つ學生でなく既に學校の籍の外にある以前の學事仲間のやるべきことであらう、何も世の役に立つこと

は學事のみに限らぬ、運動競技もやはり見様によりては一の學事であるからである。

アメリカの各種體育技の發達歴史をのべて、其結論として日本ではアメリカの體育技の旺盛に猛省されたいといふのが、結論であつてそして其結論のゆく所は學生が職業ゲームをつくる此の決心と商賣氣がなければならぬといふことである、つひてにあまりに商賣といふ事を輕んじ過ぐるから一言したのである。

十二、拈華微笑——評論——

拈華微笑——評論——

一、農民小説の問題

小説家本間久雄氏は農民小説といふことには大まかに見て、三つの解釋が求められる第一は農民を題材として自然主義的に取扱つた小説といふ意義である、第二は農民の諸生活を問題的に取扱ふことに依て、農民の向上、解放、覺醒等を自らにして促がす小説であるこの二つともその作品が必ずしも農民自身であることを要しない、第三は農民自身が農民の覺醒と幸福のために農民自身の生活を批評的に描寫した小説である、この三つの中で農民小説として最も價値の高いのは、いふまでもなく第三の場合のものであると、成程御尤もな所論である。だが今の場合では農民自身が智識的にも感情的にもまだ全く解放されない有様であるから此の第一義的の農民小説は現在には殆ど期待すべからざるものと見做さねばなるまい、吾黨の士以て

如何となす。

二、ピロテリンの命名

ビタミンAといへば今の苟も食物に注意するものは、すぐとあゝそうかと思ふほどに知れ渡つた薬劑であるが、其発見者の誰れかは知らぬものもあるだらうが、今回発見者高橋農學士(克己)はビタミンAに $C_{27}H_{46}O_2$ の化學分子式を與へ *Bioterin* の新名稱を下し内外の學界に發表した、之に依てビタミンAは單に一個の化學的物質たるに至つたのである、ビタミンAの效能を知るもの、高橋學士の此人類に與へたる一大寄與を忘れてはならない。

三、所謂地震部屋の構造

滋賀縣彦根城内の樂々園内には井伊直興が拵へたといふ地震部屋がある、二間半に三間半の平屋建てであつて、其建築は礎に凡そ八百貫もある大石をいくつも埋めて、其上に七八寸角の松の大根太を枠に組み、根太は全部カスガイで、八方からと

め、床下地中へ横木を埋めて以て根太を引張り、貧乏搖ぎでもせぬ様に組込んで、床板も二重装置である、部屋は上院三疊、脇引込二疊、六疊の間、四疊の間、鞘の間二疊半、兩縁側付きである、屋根は柿葺きで重味をさけ、大きな梁などは用ひず長押は持放し、周圍は全部唐紙とし避難に便し、壁へ廊下の行詰りには抜け穴が拵へてある、かく凡てが非常に備へたものである、今から凡二百五十年前延寶年間の作であるとのことだ、樂々園の庭園續きの小高き所にあつて雨景を眺めるのに適してゐる、地震流行り(?)の折柄此耐震家屋は見物で賑ふといふ。

四、驚くべき性慾上の事實

現在の公娼制度は謂はゆる「已むを得ざる惡」である、狂暴、姦淫、墮胎、私生兒等の害惡に比して公娼の弊は寧ろ忍ぶべきである、未婚男子に性慾の満足機關を與へることは、人心緩和の上に於て必要であり、若し之を絶対に禁遏すれば、個人の心身上にも社會の風儀上にも有害である、右は公娼制度廢止に反對する眞面目な

る議論であるが、之に對し有力なる駁論がある、大正三年より六年に至る四箇年間和歌山縣衛生課長が遊客十六萬六千餘人に就て調べた左の年齢表である。

(百分率)

二十歳以下	〇、二人
二十一歳——二十五歳	、二二人七
二十六歳——三十五歳	、三八人五
三十六歳——四十五歳	、二六人八
四十六歳以上	、一一人八

此年齢表によれば二十六歳より三十五歳までの男子が大多数の登樓者を占め、四十歳前後のもの之に次ぎ、そして多くは獨身者と見做すべき二十五歳以下の青年は全數に對し僅かに二割二分を占むるのみである、してみれば公娼は獨身青年のためといふより既婚男子の遊蕩機關であると見られる、ナンと驚くべきことではないか、

剩さへ公娼があればとて私通、姦淫等は大に減ずる可能性があるといふのではない、公娼制の得失知るべきではないか。

五、若い令嬢の洋行土産

お父さんにつれられて世界を漫遊して來たとかいふ北原俊子さん(十三)は五月振りて見る故國の山を懐かしさうに眺めながら大毎記者の間に答へて語つた。

モット好い所かと思つてゐたらそれほどでもなかつたが獨逸の子供が皆跣足で帽子を被らずに歩いてゐるのは可哀さうですわお金が無うて何にも買へないんですと、わたしいろ／＼なものを上げたの、一番長く倫敦にゐたんですけれど倫敦はきたなくつて嫌ひ、そりや巴里が一番好いわ、女の人なんか日本の着物のやうな洋服を着てゐて前を合せてね、袖が付いてゐるのよ、それはハイカラだわ。發明なお嬢さんだこと。

六、これにて農民生活の安定とは

勞農政府では農民と都市労働者の聯絡親近に力を注ぎ、極力農民と都市労働者間に親密關係を結ばしめることに努めてゐる、十一月七日の革命記念祭の際浦鹽に來た農民百六十八名に對して市の賓客として毎日歡待に努めたので、農民等は浦鹽に淹留して歸村することを忘れてた、處が本年は農産物の暴落により農民の失業者多く農民は一般に都市集中の傾向があるので、労働省では農民の都市集中を一時禁止する命令を發した、そして之によつて農民生活安定を計るのだとは扱てく。

七、年に八千名の告訴

電車汽車の人をつき飛して乗降りしようといふ人達だ、牛馬の虐待などはナンものかはだ、警視廳管下で説諭を受けた馬子達は年に四萬件あり、其二割は虐待が過ぎて告發されたといふ、併し今東京市内にゐる牛は九萬三千四百頭馬は五千七百七十八頭であるが、馬方牛方の間に動物愛護の念が深くなつてきたのは確かだとは警視廳池上獸醫課長の言である。

八、日本ではたつたお二人

廣島縣安藝郡倉橋島村國東ふみのさん(廿四)は本年七月中廣島遞信局三津濱出張所で執行された船舶職員試験に應じ總受験者百十五名中に紅一點として加はり四十六名の不合格者があつたが、彼女は見事に好成績で合格した合格後は自己所有の六十五噸積帆船の船長として乗船することになつてゐるとの事だ、同女以外に大正七年中やはり廣島の遞信局海事部で運轉士に合格した花戸糸野さんといふ女性があつたから岡本ふみさんは日本で二人目の有資格船員である、女で免狀所持の船員は海上を生命とする英國でも數へるほどしかないとの事だ、何はともあれお芽出度いとて活動にある男々しき女船長が憶ひ出される。

九、アヂケス法とゴ老人

土地區劃整理を國家の手にて焼失區域全般に亘り劃一的に行はんとするのは、アヂケス法によるをよしする、アヂケス法は一九〇二年獨逸フランクフルト・アム・マ

イン市長アヂケスの立案に係るものであつて、此法の目的は焼跡全體を以て一の整理區域とし區域内より將來、道路其他公用地を除却し殘餘の整理された土地を、従前の面積位置に準じて整理された土地所有者に分配公布する方法並に之れが結果として民間所有地の若干を公共のために無償提供せしめても、尙個人に損失を負はしめずに終るに在る、此アヂケス法は一九一三年には普國全體に適用せらるゝに至つた國家社會のためなら物の無償提供をも敢て辭せぬといふ眞に社會的思想が我邦上下一般に起るのも遠いことではあるまい、が今は中々そうはゆかない、獨り復舊審議會の老人達のみを咎むるは酷であらう、凡てのことが社會思想的機運に向はねばこつといふ經濟上損得のことは先覺者にさへ求むることもできぬといふ方が至當ではなからうか。

一〇、學者が理想を追はぬ

東京帝國大學の移轉はオヂャンとなつた、本郷の敷地を代々木に移すことは理想

に遠ざかること甚しいものであつた、それだから陸軍の肱鐵砲に敢なく倒れたのである、これは學者として理想を飽くまでも追求せぬ咎めである、大學敷地の理想地といへば随分、數多かるべし、先方でも之を渴望してゐるのである、此理想地を措いて百年の大計を捨て、代々木の明治神宮の背景などに渴仰隨喜するからであつた、それにしても駒場はみじめなものだ、實習地は以前のところだといふ、それでは總合大學の何もかも一箇所に纏めるといふ意義は空になつたわけではないか、併しそれはそれとして學生生徒の理想論者迄もナンダか屏息してゐるのはどうしたものか傍觀者には其真相は分らないが、學者は理想を追つて居りさへすれば遂に報ひらるるものである、之は眞理である、餘り世間的に生きてはいかぬ、政策は時代によりて換はるものだが、學理は變らぬものだ、此間の消息を學者は知らぬかナそれとも眞の學者は居らぬかも知れぬ。

一一、生絲輸出一港主義の疑義

農商務大臣は生絲輸出港は一港制となすとのことを言明し以て神戸を新たに輸出港に開かんとする企畫を挫折せんとしたやうである、これは記者側からの推量であつて當局の肚裏はどうであつたか、知れぬとするも、少なくとも其言明ではそう思はれるのである、併しながら農蠶者乃至生絲家の立場からすれば、輸出港は必ずしも横濱のみに限るとする理由を會得することが出来ぬであらう、たゞ横濱生絲輸出業者の立場からすれば當局の言明は最も其意を得たものであらう、養蠶家の利害は生絲輸出業者とは一致するとは限らぬ。

何でも餘計賣れ口さへあればよろしい、それには輸出業者の競争は多くなるほど利益がある筈だ、其とのつまりはアメリカに於ける販路の點であるが、内地だけでいへば今言ふ如きものであらねばならぬ、それなのに當局者は主に輸出業者側のみを見るが如き嫌あるは片腹痛き咄しである、一體當局者は産業者相互の間利害の衝突あるときは其間に在て公正を保護すべきものである、然るに一方の肩を持つや

うな風であるのはどうしたものだらう、併し記者の見當違かも知れぬ。

一一、農會のセトルメント

帝大ではセトルメントを本所深川の焼跡に開いて大に大學と社會との實生活的聯絡を圖りかねて學生の社會的研究に資するといふ話した、話しのみだけではない、既にセトルメントの建設をなし數百のセトララーを置やうになつたといふ、これは實社會のためにも大學のためにも一舉兩得である、かくてこそ大學の新生命を開くものであらう、どうだらう、之をまねるといふわけでもないが農會などでも農業者の費用にて經營するところからみても、何とかセトルメントのやうな施設を實行したらどうだらう、差當り米國に行はるやうな自由市場を都市に開くことは最も農會に適した而かも農業者の利益に密接な關係あるものであらう、農會が最も農民の實生活に經濟的乃至社會的接觸をなさず、單に間接な政治的運動のみに没頭し當局者と折衝するも常に其要領を得ざる米穀法のやうなもののみに一生涯命にな

つて居るはどういふものであらうか、少しは農民の實生活に眞劍的に觸れたことを仕出かして貰いたいものだ、農務省獨立の如きはどうでもいゝ類に屬するなどにくまれ口を叩きたくはないが、實は農務省の獨立よりも農民の獨立が肝腎であるのだ。

一三、小作爭議の變調

小作爭議は激増の趨勢にあるといふ、數の上からみれば兵庫、愛知、和歌山等最も多く質では岐阜縣下のもの依然として猖獗を極めてゐる、九月以降今日までの數は合計二百件を超えるであらう、そして其爭議原因は其年限り小作料輕減要求のもの百二十五件、永久的輕減要求のもの二十四件、込米廢止のもの四件、其他によるものであつて、其特に注意すべきは小作料永久輕減要求に係るものは從來極めて僅少であつたのが、本年は多數に上る傾向にあるは否むことが出来なかつた。

一四、小作代表の縣會議員

勞資協調會が最近全國に亘て調査したところによると、去秋行はれた道府縣會議員選舉に當り、小作人側の利益を代表して立候補したのは、二府十縣(二十八郡)三十三人に及びその中小作人組合を背景とするもの十八人、純小作十五人、其他は、雑多な職業者であつて、全體の得票總數二萬六千八百七十七票、一人平均八百七十二票で、群馬、岐阜、新潟は各一名づゝ當選し、當選の割合は九分で、新潟の如きは最高點であつた、今回の選舉により將來注目すべきは普選實施後小作人側の政治的勢力が當然中央政界にも及ぶべくと觀測せらるゝことである、併しながら小作人の政治運動がどの程度に中央政界に及ぶかは蓋し豫想の外にあるだらう。

一五、農民黨の誕生

日本農民組合關東同盟會では普選實施の曉は新政黨を組織して政界に乗出すことと決した、其方法は選舉權を行使するより外に策なく、政黨は組合其自體で組織せず組合を背景とする新政黨を樹立する筈なりといふ、犬養木堂曰く普選問題が大選

擧であるやうにてもなれば、色々の人物が出てくる労働團體からも相當出よう、又水平社からも出るだらう、其連中が出たとて議會で亂暴などはすまい、今迄は餘りに壓迫したからネ、議會に出るやうになれば亂暴をすると思つて其防禦線として貴族院又は其上に樞密院をも十重二十重に設けたがイヤ開いて見ると案外に温順しく今ではその防禦線が却つて邪魔物扱ひぢやないか、案ずるよりも生むが易い、一體労働者々々とさげすむ嫌があるが、労働者として馬鹿に出来ぬ、殊に特殊技術等は相當の智識がなければ出来ぬ、従て相當の學問もあるし本も讀んで居る、その點で行けば現在の議員でこの特殊技術の智識程度を比較すれば恐らく以下でも以上のやうなことはまアあるまい、早い話が代議士は金さへあれば自分の名前すら書けなくてもなれる、所が特殊技術を有する労働者には無學ではなれないからねと成る程御尤もだ、此老中々咄せる。

一六、農林共通の農學部

京都帝國大學農學部は來春より開設するが其學部の組織は農作園藝學科(二十五名)林學科(二十五名)農林化學科(二十五名)農林生物學科(十名)農林工學科(十名)農林經濟學科(二十五名)とした、京大農學部は他大學の農學科組織を踏襲せず別に新機軸を出したのだ、即ち我邦では農林二業は歐米に於けるが如く其區分範圍截然ならずこれがため強て大學で農學科林學科を分設するは斯業の現状に適應せぬものと認むるからだといふ、成程農科林科と區別せず學科を共通するは綜合大學では出来る筈であつて都合のよいことであらう、何でも新機軸を出すはよいことで、而かもそれで融通がきけば、それに越したことはあるまいまア其成績に徴することだ。

一七、工場の地方分散

名古屋市は昨年大名古屋計劃を實施して以來、今回の震災に鑑み銳意工場の吸収に努め低廉な勞力と豊富な電氣動力の集合地たる地勢的便益と安價な工場敷地の提供とを以て之を宣傳してゐるため工場經營者中には此方面の敷地を物色するもの多

き模様である、單に名古屋方面に工場の移轉的傾向あるのみではない、東京隣接縣内の水陸運交通の便よき土地にも分散的傾向漸次顯著ならんとするは地方のため喜ぶべき現象といふべしだ。

一八、朝鮮小作農の内地出稼

大正六年以來各年末朝鮮小作農出稼現在人員調に依て十一年末を九年末に比すると二萬六千八百餘人の激増を示し十二年に入つては六月末現在で十一萬六千七百七十五人を算するに至つたのである、そして此等の就業分布は大阪の雑役労働を最とし北九州地方の炭坑夫之に次ぎ、長野の如きは水力電氣の旺となつた以來急に増加して現在は第三位に居る、茲に注意すべきことは出稼人の内地への旅行證明書廢止となつて渡來が容易になつたことである。

農 業	廢止前	廢止後	比較増
二八	二八五	二五七	

雑役労働者	四、五五八	二〇、八七五	一六、三一七
各種職工	一六四	二八〇	一一六

朝鮮人が斯く内地に渡來するのは、地主と小作人との間に舍音又は秋收員と稱する者が介在して小作の總てを支配し此兩者が極めて不當な小作料をとること多く、従て近年小作を嫌ふ向漸次増加し、南鮮地方のものは内地へ北鮮地方のものは滿洲方面へ出稼ぎする様になつたのであつて、その數は滿洲に於て約四十萬人西伯利も亦約五萬人に達してゐる、内地への出稼數は前述の如しである、小作料の高率なること等小作制度の缺陷が朝鮮人出稼の主因であらうが、併し一方からみればどの邦でも小作人は安定を缺くものとみへる、伊太利の如き最も出稼の盛んな國民で、之は一は習慣もあるが、それに付けても我國民の殆んど唯一の出稼地たる北米にて邦人小作も歩合耕作も土地會社の株主券所有も悉く出來なくなつたことは甚だ困つたことである、日本人は元來モチット出稼して貰へたいに、其出鼻を唯一地なる北

米にて挫かれたのは由々敷問題といふべきである、但し北米で單なる勞働に従事することは別に差支はない、或は南米もよい所であらうが、出稼者からみれば優等な地方にゆくのが一番得なのである。

一九、小麥の關稅政策

本邦小麥の需要は逐年増加しつつあるが、其生産は却て寧ろ減少の傾向を示してゐる。

	生産高	輸移入高
大正六年	六、七八七千石	五五千石
同 七年	六、四三一	五〇七
同 八年	六、三六〇	一、八九七
同 九年	五、八九〇	一、二六一
同 十年	五、五八二	二、一六五

同 十一年

五、七二六

三、九四四

大正六年には僅に五萬石に過ぎなかつた輸移入が七年には五十萬石となり、十一年には三百九十萬石といふ驚くべき多量に上つてゐる、そして内地消費額は内地の生産高と輸出入高との合計即ち大正六七年には七百萬石前後であつたが、十一年には九百七十萬石となつてゐることが分る、此の趨勢は無論將來に持續するであらうから今日に於てすら外國小麥の相場に支配されてゐる内地小麥價格は今後益々叩きつけられるものと見る外はあるまい、此勢に乗じて若し小麥取引所が外國産小麥の代用を實行し更に其輸入を増加せしむれば、益々内地小麥の衰退を促進する結果を齎らすであらう、茲に於て麥作の將來を如何にすべきか、二様の見解があるだらう、一は逐年増加する小麥の需用に對して到底内地の生産額少なく従て高價な小麥では引合はないから寧ろ安き外麥を輸入すべしといふ製粉業者側の觀察である、一は農業者側の觀察で麥作は副業的位置にあるが食糧政策上より見て飽くまでも之を

保護奨励する必要ありとなすものがそれである、農業者側の言分は元來我邦の耕作農業は夏作の稻と冬作の麥とにて立ちしかもその麥類は價格の都合によつて栽培上大麥小麥裸麥を自由に轉換輪作するのであるから、小麥の問題は麥作であつて冬作全體の利害問題である、麥作は裸麥大麥作は減少して小麥作は逐年増加の傾向にあるから、麥作が相當價格にあれば品質の改良は固より稻作よりも反當り收穫を増すことも出来る、從て裸麥大麥の作付は減じて漸増する小麥の需要に應ずることが出来る筈だ、斯くて結局冬作全體の利益となる、然るに小麥の關稅を製粉業者側のいふが如く永久に免除すれば外麥は續々輸入さるゝ結果として内地小麥作を壓倒するのみならず、遂には全麥作の不利益となり同時に我が穀作農業の組織を根本的に破壊するに至るであらう、これは由々敷大問題であるといふ、此の麥作の死活問題は遂に我が穀作農業の利害を支配する關係上小麥の關稅問題は將來我邦食糧政策上極めて重要な意義を有することは言ふまでもない、が現に東京商業會議所にては關稅

撤廢期間満了後の稅關復活延期撤廢意見として關稅撤廢期間満了後直ちに其關稅を復舊すべきものの品目中にて大麥豆類大豆鳥獸肉及魚介類をあげ、關稅撤廢期間を延期すべきものの品目中には小麥を擧げてゐる、そして其理由として内地小麥は主として醬油製造農家自家用及水車製粉に使用せられ機械製粉に充てらるるものは僅々年百萬石に過ぎないが、一方輸入小麥は大部分機械製粉に充てられてゐるので、小麥關稅の撤廢は農家に大なる影響はないといふてゐる、農業者側即ち生産者側と消費者即ち製粉者側との意見は各其據る所あつて一を以て他を廢するわけには行かないことは上述の理由に之を見ることが出来るよう、然らば國家は孰れの側に立つか食糧政策上の見地よりは固より小麥の關稅撤廢は難かしい、去りとして高値なる食糧品を消費者に強ゆることは無理なる咄してあつて、斯くて國民の不安を招かしむることとは避けねばならぬ、但問題は果して關稅撤廢のため我耕作農業組織の根本が崩れるか否、製粉の高値なるためどれだけ消費者側の國民の生活が不安になるかといふ

實際上の事實である、これは中々デリケートな問題であつて論者の立場によりて客観よりも動もすれば主観に動かされ易いのである、これが問題の解決上困るのである、記者は個人からいへば米食者でなくてパン食主義であるから製粉業者の立場に與みせねばならぬが、原料は安くなつても中々製品の値を安くするとも極まつてゐぬ、商人といふ奴は中々ズルイので易々とは賛成することが出来ない、去れば我邦では商品の販賣組織の根本改良を策することが眞先に來ねばならぬ、麥作が減少する傾向になつたからとて直ちに我穀作組織の崩壊を來すとも限らぬ、依て當局者も農業者側も麥類關稅撤廢反對よりも眞劍になつて販賣組織の改善を實行すべきである、これは憚りながら新しい見解であつて、容易に農業者側の賛成するところとはなるまいが、何でも安い品物を世間に供するやう努むることはお互に國民の義務である。

二〇、破瓜期、何事によらず實行に着手すべき時

最近宮城縣で巡查採用の爲の常識試験をやつた、其答案の中には左の如きものがある、一體巡查でも志願する其の青年は少しは氣のさいた連中であつて、物識りの中に數へらるべきものである。

- △破瓜期 霖雨の七月といふ意味、何等によらず實行に着手すべき時
- △處女出版 未婚者の理想又は希望を記した本、女學世界の一種
- △左傾 賛成すること、左前になること、即ち破産すること
- △サガレン 佛國の地名、フランスの政治家の名、露國人で目下日露豫備交渉委員の名
- △タクシー 英國首相、速力のこと
- △宣傳ピラ 宣教師
- △ビルデング 麥酒の一種なり、米國大統領、株式會社組織の金融會社
- △使嗟 下女下男のこと、使を呼ぶこと

△香具師 香のする道具を作る人、寺の僧侶をいふ、樂器の製造者

△乃公 乃木大將

△野合 ベースボールの運動、彌次の集合

△天刑病 先天的盜癖あるもの、監獄生活

ご覽の通り中々秀逸のものがある、併し斯かる奇抜な答案はひとり巡査採用の常識試験のみにあるのではあるまい、専門學校や大學の學生の答案には或はもつと秀逸がないとは限るまい、などといふた連中の常識こそ、實は頗る怪しいのだ、誰れだいそんなことをいふのは。

二二、女は風を上げ男はセーターを編む

「……私は小供の時から風を上げる事が非常に好きでしたが娘の耐子(第一高女の高等科在學)が又私以上です、そのため知人のお嬢さん達もいつかお好きになり、皆さんて風をあげてゐます、無論私も一緒になつて上げますが又其代りに男の子達

には羽根つきもさせますし、編物も此通り……」と三人の坊ちゃん達がめい／＼にセーターを編んで居られるには道に驚かされた「女の子男の子といつた差別的の教育をしたくないと思ひます、最近の實驗で私は痛切に感じて居りますから明年から茲に徹底的に子供の教育に就て研究し實際にやつて見たいと思つてゐます」

これは女子教育振興會の幹事田中芳子さん(帝大教授田中儀一郎氏の夫人)のお話してあるそうだ、女が風を上げ男が羽根をつき、セーターを編むだとして別にどうでもないだらうが、夫人のお説の女の子男の子といつて差別的教育をしたくないとおつしやるのは成程今度の大地震の時などには甚だ效用のあることでありませうそればかりではない、女が男に劣つてゐるといふ證はどこにも少しもない事なのだから其邊からいひましても差別的教育をせぬといふことは尤もよろしい。

二三、人に見せられない大切なもの

それは一體どんなものだらう、或る帝大生が鎌倉圓覺寺の參禪のとき、師家が人

に見せられない大切なものを持つて来いといふと、其學生は考へた、人に見せられないもの、ハテナ何んだらう……良久あつてよし／＼と獨り點頭き、猿股をはづし股間の一物を出して如何であると見せた、するとそんな物ぢやない莫迦と大喝された、此帝大生は今は東京で錚々たる辯護士で自動車を飛ばしてゐる、其無邪氣であつたのが面白い、宗演老師が或る學生が參禪したとき富士山を縛つて眼前に持つてこいといつた、スルト其學生は暫らく考へたが、聽て手早く帶を解くや否や、宗演師をグル／＼巻にして、これでは如何といつた、此の學生も今は要路の人と爲つてゐる、此話は松田竹の島人といふ方の應物現形にある。

二三、得意の農業政策に油が乗つて

矢作東京帝大經濟學部長が得意の農業政策に油が乗つて長廣舌を振つてゐる最中、先程から睡氣を催して居た一學生が堪まらなくなつたとみえて一言の挨拶もなく出て行かうとすると、博士が「君君ッ」と呼び止めた、けれども件の學生は突嗟に

マントを頭から引ツかぶつて一目散に懸け出した、之を見た博士は柔道三段の偉軀を起して猿の如くに後を追ひかけたが、バラック食堂の邊で獲物を見失つて息をフウフウ弾ませながら残念そうに歸つて來た、學生連は一齊に拍手を送ると、博士曰く「別につかまへてでうしやうと云ふ考へもなかつたんですがねエ」と、「サボ學生矢作經濟學部長を走らす」と茶目學生連は喜んだがこの十分間に十數人の同類がエスケープを決め込んだとは神ならぬ博士は知る由もなからう「一兎を獲んとして十兎を失ふ」とは奇抜な政策もあつたもんだ。此帝大新聞のゴシップの最後の評論は全くそうだ、政策は政策だいつも定まつたものではない、だから博士は此ときは一兎を得んとして十兎を失ふたが之と逆に一兎を失ふて十兎を得ることもあるを認めねばなるまい、してみると政策はつまらぬものだ、變るところに妙味はあるが變らぬものを研究せねばなるまい。

二四、動くのは善惡とも進歩だ

農學會といつても知る人は尠ないかも知れが、舊會長横井時敬博士に代つて鈴木梅太郎博士が新會長となり舊副會長安藤廣太郎博士に代つて岩住良治博士が新副會長となつた何でも變るのは進歩である。

二五、國會議員は成長した大學生

建部遜吾博士補缺選舉で當選して一陣笠として三日間議席についた其感想に曰く「議會は野蠻だといふが、そんな事はない成程役所なんかは比べては亂雜無雜の感はありませうけれどそれは活氣の別名です。たとへば女學校や中學校やは生徒も先生も秩序整然と恰も役所風であるが大學となると教授も學生も全然女學校や、中學と異つて形式上亂雜だが、然し深味がある活氣です、行儀の悪いのは、議會と大學と同じで自由の氣分と活氣のある事も亦大學と議會と同じです、議會は成長した大學と見るべきでせう、私は大學より議會に出た事を喜ぶものです」こゝで一件さきのサポ學生矢作經濟學部長を走らす大學教室内の活劇を解すべしである。

二六、アリストクラシーとオリガーキー(講義)

アリストクラシーは最善階級の政治の義であつて、眞にその通りなら結構毛だらけである、ところが最善階級の政治がいつかはオリガーキーとなつたとは妙なものである、そうあるべき筈のものがそつたに過ぎぬと見ねばならぬカナ。

二七、都市農村罵倒し合ふ

「地方のお百姓許りに目をかけてをべつかまじりて頭から帝都復興案を握り潰した奴等め！帝都に住む哀れな泥と塵の患者をどうするつもりだ、一渡り街を歩いて見ろ、まだ焼け火が山を成し之を片付ける人夫も懶しげだぞこれも皆んな貴様達のお蔭だ、いまに見ろ天罰觀面ギャフンといふぞ。」(本所のエス)

「銀座の夜を一通り漫歩してみると右も左もいやに食料品屋飲み物屋が殖いた、一二軒置きに大きな店を罐詰で塞いで居る、東京の奴等がいやに喰ひ意地が張つて居るやうて嘔吐を催す。」(埼玉の一農夫)

罵り合つてゐる中に本統の事が互に分てくるものだ、はしたなき業であるが、これも仕方がない、だまつてご無理ご尤もで、ひつこみ思案よりは世のためになる取得がある。

二八、猿股と六尺孰れかの問題

「婦人の服装改良は先づ下から」と説く論者がある、之を見て此點社會政策に似て居るといふ、成程下からはよいが、然らば社會政策にも猿股を穿かせるか、これは六尺の方が遙にましだ。

二九、先づ行李よりトランクたれ

「歐米と日本の電車の差違は恰度トランクと行李の違ひだ、トランクには所定の収容力以上には詰らないが、行李の方は平時の風袋の二倍以上詰まる。……行李の便は即ち便なれども詰られるのが人間だから情ない……」

此點、日本では人間は行李になつて荷物はトランク入りだ、人間よりは荷物の方

が尊いといとみへる、先づ人間がトランクには入る工面をせぬばなるまい。

三〇、自分の好いた人とどうなる

「結婚といふものは、體質だの遺傳だのと詮議立てるのは第二義で、自分の好いた人と夫婦になるのが一番だ、そしてその愛たる火の如くに……」と眞向から戀愛至上主義をふりかざして娘さんに附添の父兄を驚かしたのは未婚男女懇談會での永井柳太郎代議士だつた、が更に主催者側が男女の席を別々にしたのに、そんな分け隔てをするから日本の男女交際は圓滑に行かないのだ、知る女知らぬ男が入り交つて話し合ふてこそ、そこに思ひがけない未來の良人や又好いたらしい將來の細君にめぐり會ふ機會となるのである」と論鋒を進めたといふことだ。成る程それに違ひない、併し嫁一人に婿八人、婿一人に嫁八人もできやうものならどうする、日本にはえてそらいふやうなことが有勝ちだからサ、さうすると出奔するだらう、イヤ情死するだらう、そして何でも死ぬのがいゝとなつてゐる國柄では餘り新らしがりも

出来まい、尤も人の二人や三人は死んでも此國では差支もあるまい、してみればヤハリ永井氏の論鋒通りにするか。

三一、林間酒を温む

今度富山小林區署は其管内の黒部峽谷における幕營者に對して、一々其地點を届出てしめ、所用の薪炭を全部携帶せしめ、みだりに國有林を伐採するものは濫伐者として假借なく告發するといふ。富山縣には立山あり、黒部峽谷あり。縣廳は盛に登山の美風を鼓吹し林區署は登山者の不道德を鳴らして、嚴重に取締らんとするのである。

縣廳林區署それ／＼の立場から之を見れば御尤もであるが、我等乃至社會からは甚だ面白くない。之がため折角の體育獎勵をはばましめることになりはすまいか、これは一つ林區署に向ては、角を矯めて牛を殺すことのないやうに御手加減を願ひ登山者に對して、その自ら相警め、國有林を濫伐することなきやうに致したいものである。

である。それといふのも登山者の山林乃至樹木に對する心得を缺くからである。少し位の濫伐は餘り山林の害をなすものではあるまい。併し既に濫伐である害はないといひまい。が苟も樹木に對する理科學の知識さへあらば、濫伐をして濫伐でなからしむることは、易々たる筈ではないか。ア、理科學知識の涵養なる哉。

三二、市に隠るゝもの

市隱といへば昔しは物知り(識者)か何かであつた。今は田園の富豪がそれとなつた。今の市隱は其博識によつて社會に貢獻することはないやうだ。もしあるとすれば、單に附近の商人を利用する位のものに過ぎぬとは、市隱といふ尊とい名前も下がつたものだ。何故斯かる市隱が出来るかといへば、農村に居ると戸數割の賦課率が過重のため逋税を圖るため子女の教育を口實として、農村から都市に轉住するのである。去りとは、農村富豪の尻の小さいいにもあきれが、併し左なきだに農民離村の現象を甚かしからしむるは、寒心すべきである。

農村問題を云々するもの斯かることにも目を付けべきである。都市に住めば住宅が自己の所有である場合でも、僅かに家屋税を賦課さるゝのみで、富豪が自村、負擔する戸數割に比すると、實に九手の一毛に過ぎぬ、故にその逋税に依つて一家の生活費及子女の教育費等は優に支辨した上、尙相當の剩餘があるといふことである、若し借家であれば一厘の市税をも負擔せずしてすむのである。何事にも勘定高いは世の習ひ。無理もない事であるが、これは一つ富豪の其社會に對する心懸けに顧みて貰ひたいものである。

三三三、お手近な亭主さんへ

大阪の婦人矯風會では府市内の官僚乃至富豪に向つて實用外の自動車の使用、宴會の酒類藝妓の聘用、輸入奢侈品の使用等をつとめて避け勤勉節約を守つて博愛救恤の徳を積み社會奉仕の實を擧げて貰ひたいとして、左の上申書を提出したといふことだ、結構のことだ、しかし、何事もお上に願ふとは、サスガ徳川三百年、明治五十

年を経た大正時代でも、ヤツパリ日本社會の特徴を示すものである。此風の失せぬかぎりには、どんな立華なことでも先づ本統に行はれはすまい、婦人矯風會は先づ自家家庭から其矯風を實行したらどうだらうか。といふことはみないふことだ。日本家庭の御亭主さんは、中々細君のいふことは、自分の都合のよいことに限つて、きくだけであるからお上の力を何事にも仰がんとするのは、己むを得ないことになる。これとて果して實效があるか、どうか、疑はしいが、それでは多少はそらういふ表て立ちた行動をとればきゝめかあるだらう。日本社會は表面をかざりたがる僻かあるからだ。婦人矯風會のこの仕事もしないよりは、ましてある。

- (一)官(公)吏の送迎に藝妓を謝絶すること
- (二)官(公)吏は其資格の公私たるを問はず花柳の巷に於て宴會を催さざること
- (三)官(公)吏は其資格の公私たるを問はず藝妓の侍する宴會集會を可成忌避すること

こと

(四)官(公)吏は其資格の公私たるを問はず其宴會に可成酒類を用ひざること

(五)官(公)立學校は勿論府(市)の配下に屬する教育上諸般の集會に於て絶対に酒類を用ひしめざること

(六)府(市)の管轄に屬する電車又は自動車内等に於て酒類販賣の廣告を許さざること

可成とあるは、ナゼ絶対としないか。酒類の使用を學校内にては絶対に禁止させようとするか。コンナナマやさしいことでは、到底駄目である。日本婦人にはナゼ、アメリカの婦人がドライステートを作つただけの心意氣と勇氣がないか、これは詮ずるに、主として日本婦人の教育の足らざる故である、婦人の學力優越となれば、男子は必らずヘコタレルに違ひはない。コレは廻り遠いやうであるが其實效は屹度あがりませぬ。婦人は何事を措いても先づ自己の學力を一生懸命にみがくことが一番肝腎である。コレを日本婦人に就中婦人矯風會に忠告する。おさまりの官邊や何

かに御運動は駄目だ。それよりは手近なお亭主さんへ運動した方がましてありませうよ!

三四、女の力も偉らい

昔しは婦人の髪力は大したもので、これでもつててこでも動かぬ人間をひつぱることができた。おしやかさまも、此ことは謂はれたのである。今其ことばは忘れて申すことはできぬ、しかるところそれが今でも女の力は大したものだそうだ。それは帝國農會の山崎さんの話しに、今日の小作爭議の眞の原因は女にあるといふのだそうだ。これは又聞きではあるが、何んでも今日農村がいろ／＼とアチコチもめるのは、大もとは女の仕業である。といふのは、今日農村に一番雜誌のはいるのは何かといふと婦人雜誌である。これは他の雜誌の何十層倍である、ソレ位婦人は自覺してゐる、女改造など男改造がはだして逃げだすほどの新主義の雜誌がドシ／＼賣行くので、分るといふ。成程この女の雜誌の賣行きが農村に甚しいのは全くそうで

ある。其結論として直ぐさま小作爭議の原因が女にあるといひかぬるやうだが、併し確かにそこに原因の或部分があることは、筆者も否むことはできぬ。これは同感だ、だからといふて女子の教育は彌が上にも彌々高くなってはならぬ。否、それだから益々教育を高める必要があるといふものだ。アメリカ／＼といふが、少なくともアメリカ位に其のよいところだけなりたいものだ。そんな旨いことがアナタ出来ますかどこからか焼舌が出た。

三五、農業經營の新轉換

愛知縣では共同經營にかゝる農園が縣廳によりて試みられ、其實際上の收支計算が今年は判明する筈である。又岐阜縣では大多數の地主、自作農、小作人から成る大共同經營の組合が計畫され昨今創立された筈だ。その仕事は共同種苗を始め動力の需給調節、倉庫經營、共同販賣等のやうに、おもに勞力を節約し剩餘勞力を副業に振向け生産費を輕減すると共に生産物の販賣をやり、有利な條件で賣捌き、相當の

價格を維持しようとするのだ。そうして事の起りは農産物の市價が生産費を償ひ得ないにある。此農村經濟の行詰りを共同によりて切り開かんとする考であるらしい、實はどうして生産費を節減せんかといふことは共同經營のみには限らないが、兎に角個人企業のみでやつてきた農業が共同經營で生産費の節減をやらうといふことに着手して來たのは、喜しいことである、何十年も前に言つたことが今更實際になつてくるとは、長生をせねばなるまい、イヤ長命をせぬとも書物が證據人となつてくれるから、それで實際を見なくとも澤山ぢやないか、イヤそれでは足らぬ、矢張長生せんにやならん、なぜか、果してそれが旨くゆくかどうかを見届けたい、なさない咄しだ、イヤそれが情があるのだらうぢやないか、何だか分らぬところに味ふべきだ。

三六、人間の一番意義ある生活

爺さんは七十一、婆さんは六十八、此二人の老異性は大阪の養老院を抜出て、樂

しい生活をしてる咄し、幾ら年を取つても異性の愛は格別のものと見えまして、六十八になる婆さんと七十一になる爺さんがつまり駈落をしたのだ、婆さんは養老院で三味線が上手で弾いてゐたが、それを樂みに澤山な老人が婆さんの周圍に集まるのであつたが、其中から自分の藝の理解者とみへるその七十一の爺さんと駈落をしたのである。そして二人は三味線を弾いて町中を流して日を暮らしてるといふ、人間の一番意義ある生活は斯うして理解し合つた異性の協同生活にあるであらう、此の協同生活によつて一切の苦樂と戰つて行くことが出来る、その戰つて行くところに、一番生活の意義があるのだ、なんといつてもこういふ記事は男は女の事に、女は男の事に一番色彩を見出すものだといふことは何人も争はぬであらう、それだけですぐ分る理窟も何もあつたものではないのだ。

三七、それが人情なんてせう

大震災の折東京から大阪へ幾萬といふ避難者が行つた、斯うして大阪へ逃げてい

つた人は元氣な人達か未來の多い子供達であつたそうだ、老人が甚だ少なかつたと云へは汽車の混雜もあつたらうが、あゝいふ非常の際は未來のない老人は誰れからも注意されないものと見える、昔し姥捨山といふ山があつたそうだが、それは人情の底を表現した正しい傳説であると思ふ、それが人情なんてせう、此咄しは當時梅田驛頭で關東の避難者を迎へに出たさる老人の實感であつたそうだ、此老人の言つたやうに事實避難者の中に老人は少なかつた、若い元氣な迎への人達はそんな事實には氣がつかなかつたが、同じ人を助けるにしても、若い人とか前途の多い子供などは張合のあることだが、今にも死んでゆく老人はついおろそかになるものであると其咄しを聞いた人は附け加へてゐる、してみると他愛は自愛で、自愛は他愛でないやうだ、老人こそ老先ないのだから更に可愛いそうに思はるが、實際震災時のやうな人の心をまともにさらけ出したときの實情が老人のいふやうの如くであつたら、姥捨山も事實あつたことか、老先のないものを見捨てる、これが人情の底を表

はしたものだといふことには或は多くの人から抗議がありませう、併し事實は非常時の咄しだ、之を翻すにはまた非常の際の出来事を以てせねばなるまい、たゞ一言附けて置きたいことは、姥捨山の思想は個人的でなくて社会的に出て居るのであること見ねばなるない、個人的には皆老先ない人には同情がなくてはならぬ筈だから、それが非常時であつて、非常にさらけだされるのだ。

三八、妙齡女子の擡力

男と女とそう異なつてゐないこと、それは精神的ではなく身體的にもそうだといふ一の證據をあげてみませう、さきに秋田縣下で女の消防組が組織されたが、今度岩手縣稗貫郡新堀村でも女の消防後援團が組織された、其理由は男の組合員は多數あつても肝腎の火災其他の場合には兎角不在勝て、之がため思はぬ大事を惹起するから、男のみまかせてゐられないといふのである、そして女の組合員は二十歳前後の働らきぶかりのものだといふことだ、きいて心持のいゝ咄しだ、但其成績はどうだ

か意氣込みが既にその位なら勿論成績もいゝだらう、鹿兒島縣では巡査に女を採用したのは二三年前のことであつたがこれも其後の消息はさかぬ、これは或は世界大戰の折であつたかと思ふ、何はともあれ女が其威力を壓へ付けられて居つた下から擡げるのは其本能であるのだから、せいゝ其本能を發揮すべきだ、之を男として嬉しからぬものがあらうか、若し之を喜ばぬものがあれば男たるものではない、どうだい。

三九、文明を咀ふのは早過ぎる

或評論家は文明は女子を家庭からダンスホールへ追遣るものだ日本の女子のやうに家庭にある間は結構だ、だから文明は咀ふべきものだが仕方がない、文明が進めば皆そうなるといふ様なことをいつてゐる。文明は家庭を破壊するものだといふことは眞理の一部だ職業婦人だからといふてダンスでなくては心身の慰安を求むることか出来ぬとは想像出来ぬ。

四〇、たつた三人の女

農界は最も保守的なものであつた萬事舊慣を追ふことで通つてゐる、新人の所謂コンベンショナルと言つて甚だ鼻をつまむところだ、ところが農界は却て中々新らしいところを随分とみせつける、イヤ新人は舊人からみせつけられてゐる、コウみせつけられては新人も何とかこれに答へねばなるまい、といふのは農會では會員の選舉は純粹の普選である、その普選でやつた結果は過半数を自作農がしめたその結果は左の如くであつた。

全國市町村數	一〇、六二三	總代總數	二二二、六八八八	
内譯	地主	四〇、七六三	自作	一一二、一三三
	自作兼小作	五三、八一五	小作	一四、〇五九
	小作兼小作			
	其他	一、九一九		

數字はどうでもよい。但此中で見逃すことのできぬ事實がある、それは三人の女

が此普選の農會々員の席を占めてゐることだ、其三人の中の二人は小學校教員だそうだしら〜。

十三、組合運動の眞義及注意

組合運動の眞義及注意

一

人といひ、事業といひ、唯年緒を経ただけでは何等の價値もない、その人の業績その事業の効果によりて始めて價値を生ずるのであつて、そこで人にも尊敬され社會には持囃される次第である、尤も龜の甲より年の效といふこともあるけれども、現時にては餘り通用せぬ。それは古き時代にありて社會階級制度の儼然たる時代に於て最も效能のあつたものであらねばならぬ。例へば、大日本蠶絲會報發刊より三十有餘年を経たといふて之を祝するは、其比較的長壽の故を以てせずして、其蠶絲界に盡したる效績よりして之を祝したい、今は新人を尊ぶ、之は形式のみ新らしがりて内容は古色蒼然たるものでも、外部の粧飾が新人のやうであれば人目を眩ますことは出来るけれども、長壽であつて業績も大分擧がりたるものと、新出來のホヤ

ホヤであつて而かも業績も相應に舉がり居るものと、孰れかをとるといへば、寧ろ後者の勝れるに若かざるを思はんとする、これはその短時日に於ける努力を認めねばならぬからである、それほど今時は新人をけなしながらも稱へざるを得ない、尤も新婦人など麗々しく持囃さるゝが如くして、其實輕蔑の意味なきにあらざるは、それは新婦人の罪にあらずして、其假面を被ふるものあるより招く所であつて、何事にも這般の非事は免かるゝことは出来ぬ、大日本蠶絲會報が過去現在に盡したる成績は之を稱ふる甲斐もあるまい、それよりも將來に貢獻されたいことを述べて之を祝福したい。

二

蠶絲界に於ける製絲業と養蠶業と其價值は生産業として甲乙ある筈はない、職に優劣上下はないのであつて、總理大臣も車夫馬丁も職業として貴賤はなく、その社會に盡す點に於て、考へやうによりて月髓も雷ならぬやうに思はれぬ、併しながら實

際に社會の表面に顯はれたる丈けては一は賤まれ、一は尊ばるゝのである、養蠶業も製絲業も今の比喻の如く貴賤上下ある筈はないが、實際に於て製絲家は養蠶家を壓するが如くである、政治上にも經濟上にも社會上にもさう思はるゝ、其の然る所以は何であるか、勢力相若かぬからである、勢力相若かぬは詮ずる所經濟上一方は優者の地位にあり一方は弱者の地位にあるからである、それは數字を擧げて斯く斯く爾かゝなるを以て、爾かいふといふやうにノツビキならぬ證據を擧ぐるまでもありますまい、若し一騎打をやつたなら養蠶業者は體力も強く且つ續くを以て無論勝つ、併しながら今時は一騎打は流行らない、團體力を以て相闘ふのである、既に經濟力にては叶はない、然らば團體力を以て相搏たねばならぬ、團體力は數に於て優るものに勝目があるのである、所が量に於ては全國の農業者殆んど養蠶家であるではないか、モハヤ言ふまでもない、然るに實際に於て製絲家の養蠶家を壓するが如く、吾々迂濶のものにも見ゆるのは養蠶業の爲によろしくない、否製絲家の爲に

もよろしくない、之は相對等なる勢力を有せしむるのが國家社會の爲である、又雙方の爲である、人間は餘り勢力に上下ありとせば、強者は弱者を壓するものである之は壓するつもりでなく、自然さうなるのである、經濟的強者たる資本家は弱者たる労働者を壓するつもりはなく、地主は小作人を壓するつもりはない、而かも實際に社會現象として各地に斯く強者が弱者を壓するものもあるが如く思はるゝ、尤も中には實際に意識的に壓するものもあるが、今日の社會組織では資本主義制度では之は當然なのであつて、資本家や地主を獨り責むべきではない、それよりも、弱者の位地にあるものに、強者に對抗するだけの社會的勢力なり、經濟的勢力なりを與へる方が適切である、所が實際に於て弱者に斯かる社會的經濟的勢力を與ふる最も適切有效な方法は彼等の勝る所の量の力を働かすより外はない、これならば別に他より物質的なり政治的なりの助力なくて彼等自ら奮起さえすれば實現することが出来るからである。

三

今や斯かる希望は實現された又されんとして居るやうである、養蠶業組合、同聯合會、全國養蠶組合聯合會の組織それである、門外漢たるもの固より其真相を詳かにすること出來ず、況んや講壇上に立つ迂濶者、斯かる企ての機微を穿つことの出來ぬ筈であるが、兎も角も生産業に従事する者、其生産の協力より生ずる所得の分配に於ては公平正當なるべく、而して公正ならしむるには彼等をして勢力相若くものならざるべからず、彼等の或る者は經濟的資力を有ち、或者は唯其數量に於て勝り資力を有たない、是等の生産に従事する者をして互角の力を以て生産界に雙び立たしめんとするには、各其有する所の金力なり數力なりを以てする外より他に有效なる方法はあるまい、而して數の力の金力に勝つことを得るの途はそれ唯其數の力を纏むるに在る、從來動もすれば養蠶業の利害が製絲業の利害を以て蔽はるゝの嫌あるは、養蠶業者固より資力を有せず、而して同じ團體内にありて比較的無力なる

ことが其利益を主張し得ざりしに職としてこれ由るのである、是故に養蠶業者其の大數の力を利用して別に一旗幟を立て自己の團體を形成するは其利害を主張する最も有効有力なる方法であらねばならぬ。

併しながら製絲業者は製絲業者として一團體をつくり、養蠶業者は養蠶業者として別に一團體をつくり、各獨立に組合運動をなすは、從來の如く蠶絲業組合として利害必らずしも、常に一致せざる生産業者が強て相集まり内面相争ふよりは彼等のため等しく利益あり、且つ餘程男らしいことは言ふまでもないので、吾々の賛成する處であるが、孰れにするも彼等の *Interessenpolitik* に過ぎない、既に利益代表政策であるから、之を調節して社會民衆のためにするには國家の力に待たねばならぬものである、固より一々國家が之に介在せねばならぬことはない、彼等蠶絲業者が各自其利害に囚はれて國家社會の公益を顧みぬやうなときは、國家必らず之を矯正し之を調節する役目をなさねばならぬのである、社會の各階級が自ら其利益を

主張する政策は社會の公益に觸れぬ限りは何處までも之を徹底せしめて差支なき筈である、若し社會の公益と相反する場合は *Sozialpolitik* の立場より之を矯正せねばならぬ、これ國家の任務である。

四

製絲家なり養蠶家なり各其組合を組織して、各業務の立場より其利益を主張するのは固より差支ない、のみならず此代表政策をして成るべく徹底せしむるは彼等の産業をして盛ならしむる所以である、是故に養蠶業者が從來の蠶絲業組合より脱して別に養蠶業組合を組織して盛に活動して製絲業組合に對抗するは各自の *Interessenpolitik* として當然とする所であるが、若し其主張する利益代表政策が國家社會の公益と併立せぬ場合には國家の社會政策が出勤すべき陣取りとなる、一體經濟社會に於ける各生産業者は個人として階級として其利益を主張するものであらねばならぬが、彼等は其利益を主張するに囚はれて、其利益の源泉たる經濟組織從て所得の分

配及其種類の善悪などはトント眼中に置かぬ、蓋し生産業者の所得の分配及其種類公正善良ならば、生産業者各自相争はずしてよく其相当利益を獲得するを得べき筈である、然るに或者は多く利益して而かも多く利益すべき公正の理なく、或者は少なく利益して而かも少なく利益すべき公正の理なきものあるは、その所得分配及種類の公正善良ならざるによるのである、是故に自己の利益代表政策より組合運動をなすは今日の経済組織に於て固より當然とするが、之れが指導者たるものは又更に高所より大觀して獨り組合のためのみならず、固より主として組合の利益を圖るべきであるが、國家社會のためをも眞に打算せねばならぬ、その國家社會のためを打算するといふは、社會政策の立場をも組合當事者が勘考畫策すべきを意義するつもりである、それを具體的に一例を擧げていへば、養蠶業者なり製絲業者なり其組合團體員が悉く賃銀取でなくて、賃銀を出す人になるやうに心掛ぐることである、思ふに養蠶業者中には自作者も小作者もあるべく、此二者は大多數にして他に眞の農

業労働者であつて、養蠶をするもあらう、若し此三者よりして養蠶業者組合成るとせば、組合指導者は小作農は進みて自作農となり、賃銀労働者亦少くも進みて小作農となるやうに心掛くべし、然らずして唯組合員の業務上の利益のみを圖るは未だ盡せるものではない、養蠶業組合に斯かる心掛けを望む者の無理難題であるかの如く思はれるかも知れぬ、其眞意は生活不安なく、從屬關係なく、而かも其業務に當りて創意を有し自由を有する生産者のみになれば、此境地に至れば、賃銀取りはなくなり、賃銀を與ふる人のみになる譯合であつて、純粹の資本家なく純粹の労働者なく一身にて資本家であつて、労働者であり企業家である組合員のみにて組合を組織することを得て其利害は組合員皆一様に代表せらるゝ筈であつて、斯かる境地に至れば眞に組合は太平樂を歌ひ得る次第ではないか、蓋し斯かる一身であつて資本家であり企業家であり労働者であるが如き人は、畢竟中等社會のものである、然れば中流社會の生産者同志を以て國家社會を組織することになる、此事は製絲業者組

合よりも、養蠶業組合に於ける方大に望を懸けべきものであると思はる、それは製絲業者といふも必ずしも規模大なる製絲機械を施設するものゝみを指稱せず、小規模の製絲業者亦製絲業組合中に存在するとは云へ、製絲業者といへば、之を副業的にするにあらずして多くは専門的のものなるべく、此點に於ては養蠶業組合に専門的養蠶家あつて大資本を有するもの極めて少なく、小養蠶業者の大多數を占むると正に反對なりと云ふべきである、大製絲家が資本家たる地位を自ら下るよりも、小養蠶者が中流社會に上ることは遙に其可能性を認むるを以て、國家社會のため中等社會を建設する望みは養蠶業組合の間に望みを屬すべきものであつて、實際の傾向も亦然るが如きやうである、畢竟製絲業者は其擁する資力の大なる丈けそれ丈け養蠶業者は其擁する資力の小にして其員數の大なる丈けそれ丈け、二者均しく其階級の利害代表政策を貫くことを以て、其組合の各主要務となすべきとはいへ、一面に於ては之れが指導者たるもの、其主目的を達すると同時に、中等社會を建設する仕

事にも成功する蓋然性は製絲業組合よりも、蠶養業組合に望多しといふ所以である。

五

養蠶業といひ、製絲業といひ固より全然獨立するものにあらず、經濟上相對的關係あるものである、生絲よく賣れねば養蠶盛んならず、養蠶盛んならねば生絲安く造れぬ筈である、製絲家及其學者は生絲の賣れぬは價格の高きにあらず、之を買ふものゝ氣分其處に至らぬからである、故に徒らに生絲の値段を安くするは得策に非ずとし、強て生絲の直段を高く維持せんとする、予の始めて之を聞くや、成る程然りとせるが、深く之を思へば高きよりは安き方賣れ口よきは明かにして、之を買ふものゝ氣分固より之に作用するを否まずとはいへ、高からざるに、強て絲の直段を高く維持するは其品物を多く賣る所以にあらず、此點に於て製絲家と養蠶業者の立場は異なれり、從て其政策も亦異ならざるを得ない、然れども之を一國生絲貿易の立場よりみれば、生絲の生産、販賣、交易に従事するもの利害大體に於て一致す

る筈であつて、既に一致すべきであるが故に、長い物に卷かれるのである、此點は養蠶組合も亦心して、其利害代表政策を主張すべきである、而して之を主張するには政治的運動によるのであらうが、之は他に倚らずして自ら恃む運動でなくてはならぬ、動もすれば、政府の力を是れ頼むが如き弊習は之を去らねばならぬ、自ら運動して政府を動かし其利益代表政策を實現せしめず、初めより政府に倚りて只管其雲行によりて運動さるゝが如きは全く禁物である、天は自ら佑くるものを助く、苟くも爲す有らんとせばよろしく堂々自らの力を恃みて爲すべきのみ、此點は組合指導者の宜しく心すべき所である、併しながら官僚を排して運動せよといふにあらざ、其自らの運動によりて官僚をして成る程意義ある運動であることを首肯せしむるやうに働かねばならぬ。斯くすれば向ふより當方に附いてくる、從來民間の人士の爲す所自ら恃まず、只管官のみを頼むが故に特に此事を力説したい。

終りに臨みて尙言ふべきことは、中央集權に對する僻心を去るべきことである、

普通選舉、地方自治の努力、階級制度撤廢の如きは、皆中央集權に對する政治的の新觀念であるが、夫に對する妻、男子に對する女子の從屬的地位を脱せんとする運動の如き、男女間及び家庭に於ける中央集權撤廢の運動である、國際聯盟の如きも亦同じ觀念に出て居る、子供に對する成人の關係に於ても近來は子供の便宜及意思を中心として教育すべしとする主張をなすものがあるのである、是故に組合運動に於ても強者に權力を集中することは避けねばならぬ、從來獨り組合のみならず凡ゆる團體に於て不平起り騒動のもち上がるは多くは強者が權力を集中するからである、此點は組合指導者の必らず心すべきである、若し此注意を怠るときは折角のアップレなる近代的運動も勞多く效寡なきに終らざるは稀であらう。